

人に学ぶ 地域に学ぶ ～統合 10 年の学びを次へつなぐ～

秋田県立大館桂桜高等学校長 伊 藤 康 夫

I はじめに

本校は、秋田県北部の青森県境に位置し、東に十和田・八幡平国立公園、西に白神山地という自然豊かな山々に囲まれた盆地にあります。普通科・生活科学科・工業科（機械科、電気科、土木・建築科）の5学科があり、全校生徒約600名が学んでいます。平成28年に市内の3高校の統合により開校し、今年度で開校10年目を迎えます。

II 学校概要

1 沿革

平成28年に大館市内にあった大館桂高等学校（普通科）、大館工業高等学校（機械科、電気科、土木・建築科）、大館高等学校（普通科、生活科学科）の3校の統合により、秋田県立大館桂桜高等学校が開校しました。「生徒一人一人の能力を最大限に伸ばし、地域社会を愛し、自立してふるさと秋田の発展に貢献できる人間の育成を目指す」を教育理念として掲げ、5学科ある特色を活かして教育活動に励んでいます。



2 教育目標

- (1) 学校での教育活動と地域社会での体験を通して、一人一人の社会的・職業的自立に向け、確かな学力と必要な基盤となる能力や態度を育てる。
- (2) 地域の環境、文化、福祉などの学習を通して、科学技術の進展と生活様式の進化に対応する技術を身に付け、文化の継承と生活改善の両面から地域社会の発展に貢献する能力や態度を育てる。
- (3) ものづくりなどの体験学習を通して、豊かな創造性を育み、社会や産業の変化にも主体的かつ柔軟に対応する資質を身に付け、地域社会の発展に積極的に貢献する能力や態度を育てる。

また、平成29年度からは「21世紀を生き抜くために桂桜生に身につけさせたい力」を「桂桜力」として次の4つを定め、カリキュラム・マネジメントを意識した指導を実施しています。

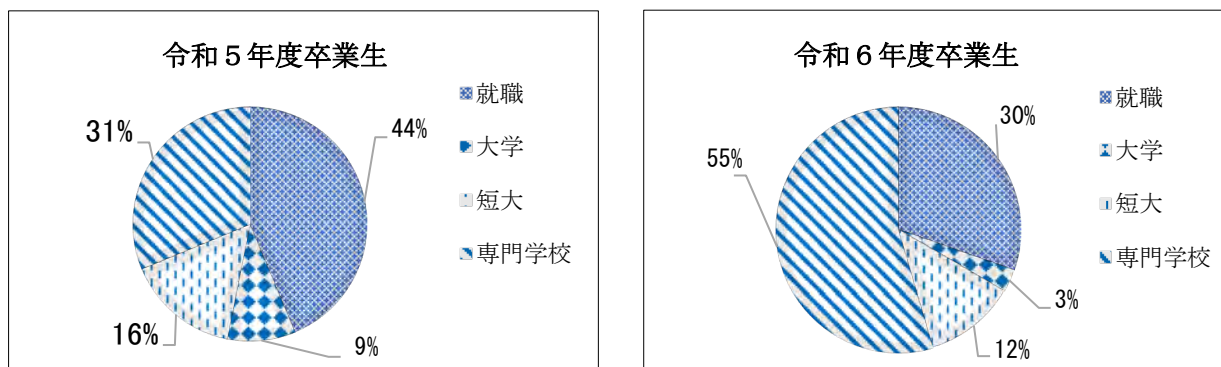
21世紀を生き抜くために桂桜生に身につけさせたい力 = 桂桜力

- ①習得力（話を聞く力、理解する力、継続する力）
- ②思考力（疑問をもつ力、発想する力、論理的に考える力、分析し判断する力）
- ③行動力（計画する力、話し合う力、役割を見つける力、実行する力、良好な人間関係を構築する力）
- ④発信力（情報を選択する力、発表する力、ICTを活用する力）

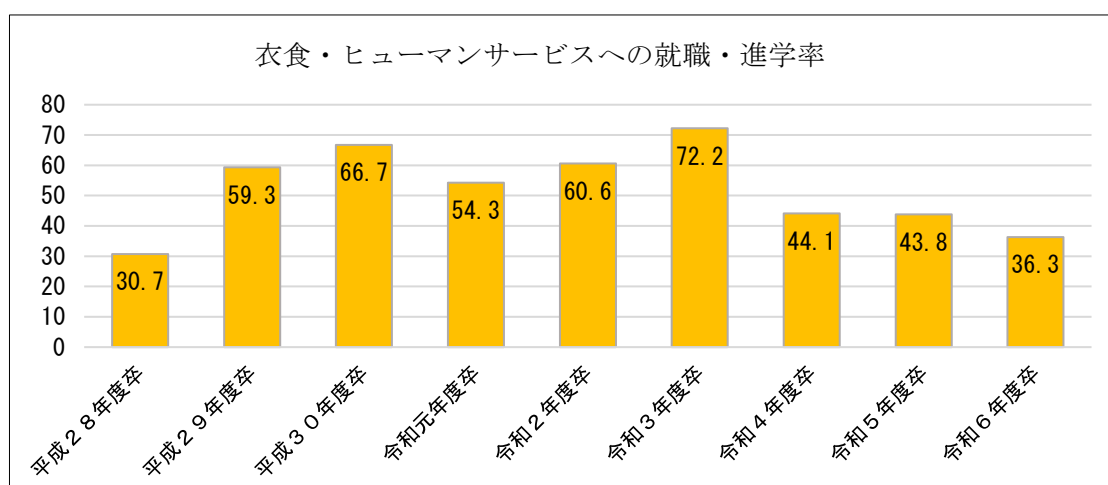
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
普通・生活科学	1	現代の国語	言語文化	地理総合	数学Ⅰ	数学A	物理基礎	化学基礎	体育	保健	音楽	英コミⅠ	論・表Ⅰ	家基	情報Ⅰ	探究	LHR															
生活科学	服飾デザイン	2	文学国語	公共	数学Ⅰ	生物基礎	体育	保健	音 / 美 Ⅰ	英コミⅡ	生活産業基礎	課題研究	生活産業情報	ファッション造形基礎			探究	LHR	家庭科目													
	フードデザイン													調理																		
	福祉													生活と福祉	社会福祉基礎																	
	服飾デザイン													秋田のくらしと食																		
フードデザイン	3	文学国語	歴史総合	総合数学	総合理科	体育	英コミⅡ	保育基礎	生活と福祉	ファッション造形		秋田のくらしと食	探究	LHR	福祉科目																	
福祉										フードデザイン	調理																					
服飾デザイン	3	文学国語	歴史総合	総合数学	総合理科	体育	英コミⅡ	保育基礎	生活と福祉	ファッション造形		秋田のくらしと食	探究	LHR	福祉科目																	
福祉										課題研究	生活と福祉					介護総合演習	地域生活と福祉															

4 進路状況

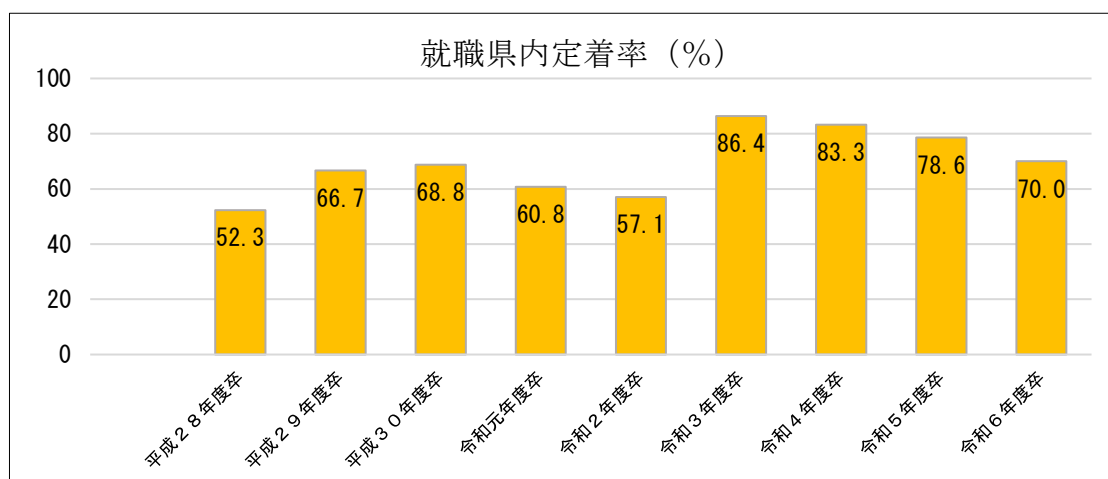
進路は就職、進学と多岐に渡り、近年は就職よりも進学者の割合が多い傾向にあります。



(1) 卒業生の衣食・ヒューマンサービスに関する職業に関係した就職・進学率



(2) 就職者の県内定着率



年度によって差はありますが、専門性を活かした進路選択は、10年間の平均50%超であり、さらに学びを深める専門学校、短大に進学する者が多数います。美容系、ブライダル系の専門学校に進学する生徒も多いです。また、地元就職率は10年間の平均が69%で、進学後も地元に戻り就職する生徒も多く、地域を担う人材の育成に生活科学学科が大きく貢献していることが分かります。

5 人に学ぶ 地域に学ぶ

開校より地域での交流や体験、ものづくりなどの学習を通して技術を身に付け、地域社会の発展に貢献する能力や態度を育てることを目標に、様々な取組をしてきました。その10年間の取組の中で地域の方々に教えていただき、発展させてきたことをご紹介します。

(1) 全国産業教育フェア（H28～H29）

平成29年度に秋田県で開催された全国産業教育フェアの準備が統合初年度から始まりました。本校は県内唯一の家庭系列生活科学科設置校ということで家庭部門のファッションショーと展示、手作り体験コーナーを担当しました。ファッションショーのドレスに使用した十文字和紙、展示や手作り体験コーナーの草木染、藍絞り染めはそれぞれの専門家に技術を習い、生徒と一緒にショーや体験コーナーに使用する布地や材料を用意しました。この時から藍絞り染めは服飾デザイン選択の2年生の課題研究、さらに3年生の学校設定科目で取り組む教材となりました。ファッションショーでは地域の美容師にメイク教室やウォーキング教室を開いてもらい、よりプロフェッショナルなショーを目指して生徒たちは努力しました。



プロからメイクを学ぶ



学校でドレスを着てウォーキングの練習



十文字和紙のドレス



藍絞り染めのドレス

(2) シニアファッションショー（H28～R3）

統合初年度に大館ロータリークラブから「シニア世代が生き生きと暮らすまち大館」を発信したいという提案があり、共催事業として始まりました。新型コロナウイルス感染症の影響があり、令和3年までの6年間で計5回開催しました。会場との折衝や当日の来場者対応はロータリークラブで、ファッションショーの企画・運営及び参加団体との交渉はすべて本校生徒が行うという他の行事ではあまりない生徒の主体性を大切にしたイベントでした。年々出演団体が増え、婦人会や保育園児、サークル活動の方々など、本校生徒と地域の三世代が集まって、出演するショーに発展し

ていきました。最後の開催では「コロナに負けない」という意味も込め「吹き飛ばせ！ファッションパワーで大館に輝きを」にテーマに、生活科学科3年生全員がショーの準備、企画、運営に関わりました。保育園児、高校生、シニアと世代も所属も違う人たちが集まって、手をつなぎ、互いに教え合う関係のなかで、世代を超えたつながりは地域を豊かにし、自分の心も豊かにすると、生徒は感じているようでした。



自分で製作したドレスを着て



子どもたちと一緒に



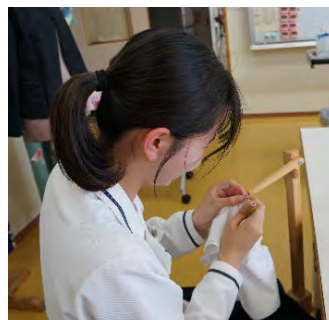
婦人会の方をエスコートして

(3) 藍絞り染め、鹿角紫根染め・茜染め【伝統工芸を教わり、作品に発展させる】(H28～)

秋田県立博物館の講師の方に、様々な絞り方と藍染めを指導してもらっています。毎年生徒が考えた図案を反物に絞り、それを利用した浴衣やドレスを製作して、ファッションショーで秋田の絞り染めとして紹介したり、秋田の季節や風土を表現した図案を絞り、つなぎ合わせたタペストリーを地域の催し物で展示したりしてきました。鹿角紫紺染め、茜染めは県北の鹿角地区に伝わるもので、植物の紫紺、茜から染料を作り、絹を絞り染めるものです。鹿角地区で教室を開いている方に教えてもらい、ファッションショーの小物やタペストリーを製作してきました。絞りの組み合わせや染めの出方によって多様な姿を現す絞り染めを伝統文化として、服飾デザイン選択の生徒は引き継いでいます。



県立博物館で藍絞り染めの講習会



図柄を絞っています



絞った反物を染めています



横手絞りの反物と製作した浴衣



秋田の風土を表現したのれんとタペストリー



鹿角地区に伝わる茜染めと紫紺染め

(4) 銀行や市役所、公共施設での展示、あきたCM大賞への出演

【大館の四季や名物を表現した製作物で地域を盛り上げる】(R元～)

服飾デザイン選択2年の課題研究では、美術の授業や電気科とコラボして、生徒が考えた地域のお祭りや行事、名物を表現したデザインでドレス製作をしています。それらは毎年学校祭や地域産業祭でのファッションショーで紹介されますが、その他にも地域の公共施設に展示したり、テレビ局のCM大賞に出演したりしています。場所の提供やCM制作にはPTAや市役所の方の協力があり、生徒の活動を校外で知っていただく良い機会になっています。また、生徒が地域を思い、表現したドレスは地域を元気づけ、盛り上げる役目を果たしています。



銀行待合室の展示



R6.1.27 北鹿新聞

市庁舎でのドレス展示

(5) 伝統料理講習会、米粉料理講習会、後継者育成支援事業、着付け教室

【地域のプロに指導を仰ぎ、地域に還元する】(H28～)

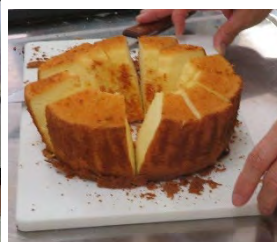
地域で活躍するプロの方に多種の講習会で指導をしてもらっています。伝統料理講習会は大館が本場である「きりたんぼ鍋」の本格的な作り方をきりたんぼ協会会長を務める料亭の料理長に、米粉料理講習会は米粉パンの店主に、後継者育成支援事業ではイタリア料理の店主にそれぞれ指導してもらいます。作り方のみならず、職業観や食材へのこだわり、地域に伝えていきたい食文化など食に携わる者としての意識も語られます。ここで学んだこと、が将来の就職や進学に役立ったり、自分たちで考案するレシピにつながったりします。また、着付け教室では自分が製作した浴衣を自分で着ることができるよう習得し、学校祭や地域の産業祭のファッションショーで披露します。



秋田杉の棒でたんぽを焼きます



米粉シフォンケーキ作り



イタリア料理の特徴とは・・・



豪華なメニューを調理



帯結びに挑戦

(6) 商品開発コンテスト作品、たけや、パティシエによる商品化

【地域の企業とコラボし、商品化する】(H28～)

秋田を代表するパン製造会社「たけや」では、毎年県内の高校で考案したバナナボートの商品化する産学連携に取り組んでいます。令和3年にはフードデザイン選択の生徒が考案した「桂桜豆乳きなこボート」と「桂桜アベックトースト」が商品化され、県内のスーパー、コンビニなどで販売されました。また、生徒考案による焼き菓子や、地元パティシエによって商品化され、学校祭や地域産業祭で販売実習も行います。売り上げもデータとしていただくことができ、レシピ考案から商品としての販売、売れ行きの状態を知るという食品製造の一端を知る良い経験となります。



たけやでの商品化



地域産業祭で販売実習

(7) 都市農村高校交流【コロナ禍で生まれた都会の高校とのリモート交流】(R2～R6)

地域づくりの担い手不足解消や地域と多様に関わる人を増やすきっかけ作りとする「関係人口創出・拡大モデル事業（総務省）」の一環として、市の移住観光課がコーディネート役となり、都市と農村に住む高校生が互いに食を通して交流する事業がコロナ禍の時に始まりました。東京女子学院高等学校のフードカルチャーコースと本校の生活実践コースフードデザイン選択の生徒が郷土食や地域の食材を使った料理を紹介し合い、リモートで一緒に調理交流をしました。リモートで実習を交えた交流というのは伝え方や調理の見せ方の学習になり、互いの地域の食材や郷土料理を紹介することは改めて自分の住んでいる地域を理解し、良さや課題を発見する機会になりました。秋田

からはきりたんぽ鍋、伝統菓子かまぶく、大館産生ハム・とんぶり入り米粉クレープ、山の芋鍋などを紹介し、東京女子学院高校からはマカロン、練馬大根を使ったすずしろ汁、大館産山の芋入りハンバーグなどを教えてもらいました。生徒たちはそれぞれの地域に根付いた食材や料理を味わい、新しい交流の形を楽しんでいました。秋田の自然や食文化に興味を持ってもらい、秋田や大館を「知ってもらう」一歩になったと思います。



調理中のリモート画面



移住観光課の全面協力での zoom 交流

(8) 他校種との交流授業や地域行事で体験コーナーを担当

【自分たちの学んだことを地域活動に還元】(H28～)

自分たちの学びを元に、小学生、支援学校との交流授業の内容や地域産業祭、公民館活動での手作り体験コーナーの内容を考えます。簡単なお菓子や小物製作が多いのですが、製作のどの部分を体験してもらったら良いか、そのためにはどんな準備が必要か、どのように説明したら伝わりやすいかなど、指導者としての目線が育まれます。他校種の子どもたちと関わることや世代の違う高齢者の方に教えることは、学びを深め、創造性やコミュニケーション力を向上させるとともに、自分の学びを伝えることで相手が喜び、楽しんでくれたことに満足感を得ている姿が印象的です。



地域産業祭手作り体験コーナー(地元産米粉と枝豆を使ったどらやき)



公民館まつりでかまぶく紹介



地域産業祭手作り体験コーナー(折り染め和紙)



支援学校との交流

(9) 介護職員初任者研修【福祉の基礎を身に付け、次のステップへ進む】(H28～)

地元にある秋田看護福祉大学や高齢者施設、市立病院の協力を得て、130 時間の研修を行っています。講義だけでなく、施設の設備を借用して入浴介助実習を行ったり、夏季休業中に施設実習を行ったりと、現場の実際を経験させていただきます。卒業後、地元の施設で活躍している先輩たちも多く、福祉を支える人材を育成したいという熱い気持ちを感じます。高校から福祉の道を志す生徒の意気は固く、進学や就職先でもより高い目標を持って頑張る生徒が多いです。



130 時間頑張りました



看護福祉大の先生の講座



入浴介助実習

(10) 認知症カフェ【地域の高齢者やそれを支える家族の居場所づくりに貢献】(R6～)

令和6年から3年福祉コースの生徒が中心となり、本校を会場として「認知症カフェ」を隔月で開催しています。大館市長寿課、地域包括センターの全面協力を得て、事前に「認知症サポーター養成講座」を受講します。地域の高齢者、その家族の方々との交流を通して、認知症への理解を深め、小さなつながりを広めていければという思いから始めた事業です。定期的に参加し、本校生とも顔なじみになって楽しみにして来てくれている高齢者の方もいらっしゃいます。これから、このつながりがどのように広がり、発展していくか楽しみです。



レクリエーションの様子



顔なじみの利用者さんと

IV まとめと課題

この10年は秋田県内で唯一の家庭系学科として、また統合校の生活科学科として、その礎を築いてきた10年だったと思います。統合前の大館高校の生活科学科の伝統も引き継ぎながら、地域に伝わる技術や文化を習得し、より深めようと課題研究や学校設定科目で取り組んできました。職業人の仕事に向き合う真剣な姿に教えられ、そこから吸収し、地域活動として還元していくことで、自分たちの学びが地域に役立つということを実感して、誇りと自信を深めていく生徒の姿を見てきました。それは、生活科学科の学びがまさに生活に直結し、地域に生きる人とその思いをつなぐことができる大切なことを勉強していると、生徒が体感した姿だと感じています。

また、地域との関わりの中で、桂桜力を磨いてきました。地域の方から技術や方法を習得する力、デザインやレシピ考案・試作、交流する年代にどのような体験をさせたらよいかなど、より良いものを作り出そうとする思考力、検定や催し物に向けてどう準備し、間に合わせるかなどの計画力や実行力、多世代の人たちとの交流や皆で協力して作り上げる行動力、自分たちの作ったものを宣伝するためのICT活用力やショーでの発信力など、生活科学科の学びの中で、桂桜力すべてを高めながら成長していく様子が見られました。

これからの10年は、さらに少子化の影響が顕著に現れます。第8次高校整備計画では、数年後、私たちの地域で再び統合校を作る計画が出ています。本校も来年度から1クラス減の募集になり、2年生から普通科1クラス、生活科学科1クラスになることが決定しています。専門性を維持しつつ、より幅広い進路に対応できる教育課程を考えていかなければいけません。また、家庭科教員の不足、年齢構成の偏りなどで次世代の教員が育っていないことも課題です。

生活を支える衣食・ヒューマンサービスは、少子高齢化でさらに求められることでしょう。私たちの学びは地域の方の多くの協力で支えられているということに感謝しながら、この10年間で培ってきたことを未来につなぎ、地域社会に貢献する人材の育成に努めていきます。

家庭科を軸にした教科横断的取組について

大阪府立貝塚高等学校長 川 端 裕 子

I はじめに

本校は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、西には茅渚の海と呼ばれる大阪湾、東には天然記念物のブナ林を育む和泉葛城山等、自然に囲まれた環境の中にあります。また、豪快で華麗なだんじり祭で有名な岸和田、大阪の空の玄関口関西国際空港のある泉佐野に隣接し、地元愛が強く、つながりを大切にする人々によって、温かく支えられています。



昭和 16 年、貝塚実業高校として創立され、今年度で 84 年を迎えました。全日制普通科・農業科（のちに園芸科）、定時制普通科、隔週定時制家政科の流れを引き継ぎ、平成 16 年に全日制総合学科の高等学校として生まれ変わり、人権教育を土台とし、チーム貝塚として連携を進め、地域に根ざした学校です。

II 学校概要

1 沿革

昭和 16 年	大阪府泉南郡貝塚実業学校創設。工業科・商業科で修業年限 3 年とする
昭和 18 年	貝塚市立実業学校と校名変更
昭和 24 年	大阪府立貝塚高等学校設置（大阪府移管）
昭和 25 年	農業課程を設置
昭和 26 年	第 1 本科、第 2 本科をそれぞれ全日制、定時制と改称する。商業科を新設
昭和 41 年	隔週定時制の課程・家政科を設置
昭和 57 年	定時制が閉課程となる
平成 16 年	全日制課程総合学科 1 期生スタート。（定時制の課程家政科）が募集停止となる
平成 18 年	全日制の課程普通科・園芸科、隔週定時制（定時制の課程家政科）閉課程となる 知的障がい生徒自立支援コースが設置され、2 名入学
平成 19 年	総合学科発表大会（貝塚高校教育フェスタ）を開催
平成 21 年	大阪府「安全・安心の学校づくり推進事業」の協働研究校に指定される
平成 30 年	知的障がい生徒自立支援コース募集人員が 4 名となる

2 教育目標

本校は、地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応えるべく、次の 4 点を教育目標に掲げ、地域を支え次代をリードする人材の育成、卒業時の進路希望の実現率 100%をめざします。

- （1）多様な学びを通して能力を伸ばし、自らの将来を展望して、目標達成に向かう自己実現力を育む。
- （2）急速に変化する社会の中で、広い視野を持って、自らの役割を見出し、活躍できるよう「自主、自律、創造」の力を育む。
- （3）知識や経験を身につけることで様々な困難に立ち向かっていく自信と誇りを持つとともに、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
- （4）学校と地域が教育資源と社会資源を相互活用することで交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

3 学校の特色

(1) 多彩な選択科目に裏付けられた「学びの多様性」

本校では、幅広い選択科目の中から生徒が自ら選択し、学ぶという生徒の個性を生かした主体的な学習を重視しています。生徒一人ひとりの興味・関心や進路選択に合わせて科目が選べるよう、専門的な科目をグループ化した9つの「パック」、「農業」・「保育」・「福祉」・「情報ビジネス」・「食」・「看護・医療」・「理数」・「文系進学」・「総合」を設定しています。これら「パック」は、複数教科による専門的な科目を「パック指定科目」としており、教科を横断した取組をすることが可能です。特に、「農業」・「保育」・「食」パックは、実業高校として創設期と高度成長期に設置された農業科・家政科を引き継ぐ本校の強みを生かした分野です。さらに、「パック」に関係なく、多くの自由選択科目により、自分の学びをカスタマイズし、広げることも深めることも可能です。

(2) 様々な生徒が学ぶ「個性の多様性」

本校生の進路希望は、大学・短期大学・専門学校・就職と、多岐に渡ります。それぞれの「パック」で学んだことを生かして、進路実現できるのが本校の強みです。1年次から「産業社会と人間」を中心とし、充実したキャリア教育を実施するとともに、積極的に発表する機会を多く設けることで、自分とは異なる視点や考えに触れ、成長しています。



また、本校は知的障がい生徒自立支援コースを設置しており、「ともに学びともに育つ」を掲げ、人権学習にも体系的に取り組んでいます。多様な生徒たちが、互いの個性を認め合い、相手を尊重する気持ちを持って、3年間の学校生活を送っています。

4 教育課程

1年次は共通科目、2年次はパック指定科目（6単位）＋自由選択科目（4単位）、 3年次はパック指定科目（6単位）＋自由選択科目（12単位）																																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29			
1年次	現代の国語		言語文化		歴史総合		公共		数学Ⅰ		化学基礎		体育		保健		芸術Ⅰ		英語コミュニケーション		英語コミュニケーション		家庭基礎		情報Ⅰ		産業社会と人間					
2年次	論理国語		文学国語		地理総合		数学A		人間生活		科学と体育		保健		英語コミュニケーション		英語コミュニケーション		パック指定科目				自由選択科目				探究の時間		総合的な時間			
3年次	論理国語		文学国語		体育		英語コミュニケーション		英語コミュニケーション		パック指定科目						自由選択科目												探究の時間		総合的な時間	

パック指定科目

保育パック  保育系の進学を目指す人や子どもが好きな人 ○保育基礎 ○(学)子どもと遊び ○ソルフェージュ ○保育実践 ○器楽 ○福祉マインド	福祉パック  福祉系進学や資格取得就職をめざす人 ○社会福祉基礎 ○(学)福祉資格 ○介護総合演習 ○こころとからだの理解 ○生物活用	情報ビジネスパック  ICTを活用したビジネスに興味のある人 ○ビジネス基礎 ○情報システムのプログラミング ○(学)情報演習Ⅰ・Ⅱ ○ビジネス・コミュニケーション ○情報デザイン
農業パック  農業を通じた社会への関わりに興味のある人 ○農業と環境 ○総合実習 ○地域資源活用 ○農業と情報 ○食品製造	食パック  栄養や調理に興味のある人 ○フードデザイン ○栄養 ○調理 ○生物活用	看護・医療パック  看護師や医療系進学をめざす人 ○論理・表現Ⅰ・Ⅱ ○(学)数学看護演習 ○生物基礎 ○国語演習
理数パック  理科や数学に興味のある人 ○化学 ○数学Ⅱ ○理数探究基礎 ○数学理系演習	文系進学パック  文系進学をめざす人 ○論理・表現Ⅰ・Ⅱ ○(学)英語演習 ○古典探究 ○政治経済	総合パック  多岐に渡る専門学校や就職をめざす人 ○論理・表現Ⅰ・Ⅱ ○数学基礎演習 ○(学)国語演習A・B ○(学)キャリアデザイン

自由選択科目

数学Ⅱ 数学Ⅲ (学)数学基礎演習 (学)創作表現 論理・表現ⅠⅡ (学)英会話 (学)韓国語
 日本史探究 世界史探究 地理探究 政治・経済 倫理 (学)東アジア文化研究 物理基礎 物理
 化学演習 生物基礎 (学)生命科学 (学)生物演習 地学基礎 簿記 簿記演習 社会福祉基礎
 福祉マインド 音楽ⅡⅢ 美術ⅡⅢ 書道ⅡⅢ (学)生活書道 (学)情報基礎 栽培と環境 食品流通
 生物活用 コンテンツの制作と発信 (学)被服製作実習ⅠⅡ コミュニケーション技術 服飾手芸
 キャリアデザイン (学)カウンセリング基礎 こころとからだの理解 ファッションデザイン
 住生活デザイン (学)手話表現 スポーツ総合演習

※(学)は学校設定科目

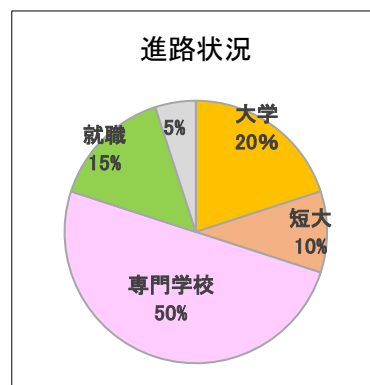
5 パック選択者の割合（令和7年度）

看護医療	文系進学	食	農業	情ビジ	保育	総合	理数	福
20	18	17	13	10	9	7	5	1

%

6 進路状況

進路は多岐にわたって、それぞれの「パック」で学んだことを生かす生徒が多いですが、それでも無い生徒もいて、進路と「パック」は必ずしも直結はしていません。大学進学も多くは、私立の文系です。短大が一定数あるのは、本校生の7割が女子であり「食パック」「保育パック」の選択者が専門科目を生して進学するからです。専門学校は全体の半数を占め、中でも10%が医療看護系の進学となっています。就職については、殆どが学校斡旋就職で、指定校求人を受験し内定を頂いています。いずれも地元志向が強く、卒業後、地域で活躍しています。



Ⅲ 家庭科を軸にした教育の実践

本校の家庭科は「食パック」のパック指定科目「フードデザイン」「栄養」「調理」と「保育パック」のパック指定科目「保育基礎」「子どもと遊び(学)」「保育実践」、さらに自由選択科目では、「被服製作Ⅰ・Ⅱ」「服飾手芸」「住生活デザイン」「ファッションデザイン」を開講しており、本校生のうち、2年次生は33%、3年次生では56%が家庭科に関する科目を受講しています。

また、他教科との取組みや学校行事、地域連携等、生徒が楽しみながら学ぶ機会を提供しており、家庭科を軸として学びを深め、広げられる実践を行うことができます。

1 食パックの取組

(1)「食パックとは」

調理の基礎を習得し、食材の知識、栄養に関する知識を深め、食生活をデザインし、さらに健康で持続可能な食生活を創造、実践することを目指としています。

【専門科目（パック指定科目）】

2年次：栄養（2単位）＋フードデザイン（4単位）

3年次：調理（4単位）＋生物活用＊（2単位）＊は農業科目

① 2年次「フードデザイン」



専門学校による出張授業（和食）



食物調理検定3級（旧4級）

② 2年次栄養



コンビニ弁当の栄養的評価についてプレゼンテーション



バターの実験

③ 3年次「調理」



専門学校による出張授業（洋食）



食物調理検定2級（練習）



3年最後の実習（自由献立・大量調理）



テーブルマナー

（2）特徴的な取り組み

2年次「フードデザイン」では基本的な調理技術の習得をめざす実習や、一人一台端末を使用し、主体的で協働的な学びを行っています。また、食物調理技術検定3級に取り組むことで、モチベーションも上がり、学校行事の中でも、クラスを中心となって活躍することができています。そして3年次「調理」ではさらに深く調理について学習して知識を増やすとともに、技術面でも成長し、調理師やパティシエ等、自分の将来を見据えて、より一層積極的に取り組めるようになります。

また、3年次では、農業科の教員による「生物活用」を学習して、命の大切さを学び、食材を育てることから始め、その特徴を知り利用法へと発展させていきます。

① 産学連携 「大阪調理専門学校」との商品開発

実習では、年に2～3度のペースで専門学校による出張授業を行い、和・洋・中・製菓を偏ることなく学びます。特に産学連携として行う商品開発は、自分たちが考察し、プレゼンテーションによって選拔され、調理したものが、商品となる喜びを知る良い経験となっています。



2年次「フードデザイン」泉州の食材を使った高校生チョコレート（抹茶でちゃちゃちゃ）



3年次「調理」万博弁当開発



牛乳を使ったレシピの開発販売（シチューパン）



② 教科横断的授業

「農業パック」では、年間 20 種類以上の野菜を栽培しており、それを食材とした調理を「食パック」で行うことができます。特に、大根は比較的栽培しやすく、安定して大量に収穫できるため、授業内で「大根選手権」と銘打って、貝塚高校産の野菜の活用方法について考え、レシピを作成し、調理を行います。授業内で生徒たち自身が順位をつけ、一位を獲得したグループのメニューを販売実習へとつなげています。

昨年は「豚バラ大根」が優勝し、大量調理した料理を販売することができました。

<主なメニュー>



豚バラ大根、大根味噌汁、大根サラダ



揚げ出し豆腐、ブリ大根、葉っぱの浅漬け



大根めし、大根餅、大根の豚肉巻き



安倍川大根、麻婆大根、大根の豚肉巻き

<販売調理>



食堂が休業の日に



「調理」の生徒は手際が良い



和食でも生徒には大人気

2 保育パックの取組

(1)「保育パックとは」保育士・幼稚園教諭に必要である子どもの理解のための知識や、音楽、体育の技能を身につけることを目標としています。

【専門科目（パック指定科目）】

2年次：保育基礎（2単位）＋子どもと遊び（2単位）＋ソルフェージュ＊（2単位）

＊は音楽科が担当

3年次：保育実践（2単位）＋器楽＊（2単位）＋福祉マインド＊（2単位）

＊は音楽科、福祉が担当

① 家庭科分野



2年「保育基礎」
（保育検定練習）



子どもと遊び
（エプロンシアター）



3年「保育実践」
（おやつ作り）

② 他教科が担当する授業

【専門科目】

2年次では「ソルフェージュ」、3年次では「器楽」を音楽科教員が担当し、ピアノの個人レッスンを2年間行います。全くの初心者でも不安なく進学することができるまで上達します。

3年次には福祉科教員が担当する「福祉マインド」を履修することで、虐待や貧困等、児童福祉の視点から子どもを守るということを学び、子どもの理解を深めます。



ソルフェージュ



器 楽



福祉マインド

【自由選択科目】

「保育パック」のほぼ全員が、自由選択科目においても専門的な科目を選択し、さらに保育に関する学びを深め、将来のために積極的に準備をしています。その中でも「幼児体育実践」では生徒が授業案を立て、近隣の幼稚園と連携し、実際に運動を通して子どもの理解を深めます。実践は年間で13回行っており、卒業間近の貝塚高校教育フェスタ（貝高フェスタ）では、1年間担当してきた園児たちとダンスを発表します。また、「創作絵本」もかなり多くの生徒が選択しています。



「幼児体育実践」事前確認



園児との初対面



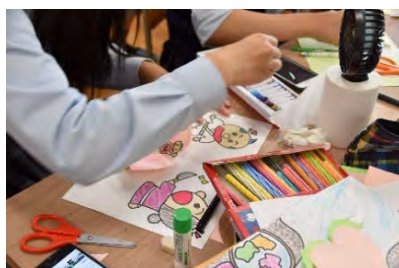
生徒の発案〇△□鬼ごっこ



園児を本校に迎えて実践



貝高フェスタで卒業発表



「創作絵本」貝塚の民話絵本



校内での展示



まちの駅貝塚に展示

3 自由選択科目の中の家庭科の役割

家庭科では、自由選択科目にも5科目26講座を開講しています。どれも実習中心であるため、1講座20人までと制約したうえで、ティームティーチングで行うため、実質一人の教員の担当生徒数が10名以下となり、細部にわたって個人に合わせた指導をすることができます。また、ベテラン教員と経験の浅い教員が組むことにより、教員の指導力育成や文化の伝承にも良い環境です。

「パック」に関係なく、本校生の6割近くが、何かしら家庭科に関する科目を選択している理由として、座学ではないというところはかなり大きいのですが、自分の作品を作ることができ、和気あいあいとした雰囲気興味関心を広げています。



家庭科が担当する自由選択科目の作品



卒業制作(学)被服製作実習Ⅱ



服飾手芸



ファッションデザイン



被 服Ⅰ



被 服Ⅱ

4 学校行事での家庭科の役割

本校では、学校行事の満足度が98%と非常に高く、座学より行事に夢中になる生徒が多いことがわかります。その中で、家庭科は、教科横断的な繋がりだけではなく、分掌と連携することも少なくありません。

農業科が中心となる収穫祭「Aのう祭」では、「食パック」「保育パック」の生徒が、地域の方々に調理販売、プレイルームを実施して、盛り上げてくれます。分掌との連携として、生徒会指導部が行う文化祭の調理部門で、家庭科教員の協力のもと、衛生管理についてのレクチャー会、レシピのチェック、器具の相談、調理のアドバイス等をしっかり行っただけで、安全な食品を提供することができています。また、体育祭では、応援団やパフォーマンスの衣装製作について、布の選定や短時間で大量の衣装が完成するためのアドバイスを行うなど、家庭科は、生徒たちにとっても教員にとっても非常に大きい役割をになっています。



Aのう祭での豚汁づくり



豚汁販売



プレイルーム



文化祭での屋台



衛生面もしっかりチェック



食品の温度管理もレクチャー



150人以上の同じ衣装を短時間で完成させるのは大変



文化祭衣装のアドバイスや貸出

5 地域とつながる家庭科

総合学科となってから 22 年目を迎え、地域の方々とのつながりも多くなってきました。生徒の学びのための機会をいただき、そこで力を発揮することは、自己肯定感、自己有用感を高め、自信につながっています。



クリスマス会を園児にプレゼント



絵本ボランティア



保育実習

Ⅳ まとめ ～総合学科の中の家庭科教育の現状とこれから～

家庭科教育というまでもなく、実生活に直結する学びを通して、生徒の自己肯定感や生活力の向上を図ることができる教科です。特に本校のようなタイプの総合学科では、取り扱う内容が、衣食住・保育・消費など日常生活に密接しているため、生徒が「自分ごと」として捉えることができ、学習意欲の向上が期待されます。また、自己肯定感が高くない生徒たちにとって、学校生活において、挑戦して自分なりの成果を感じる機会が必要であるため、学びの幅が広い家庭科は大きな存在意義があります。

本校では先に紹介したとおり、教科横断学習のつなぎ役としても重要な教科であり、家庭科×理科、家庭科×社会、家庭科×美術等、他教科との親和性が高く、さらに広げることにも可能と考えられます。また、探究活動にも取り組みやすいため、身近な問題を深く学ぶことができます。家庭科教育を充実させ、生徒の興味関心に応じて、柔軟なカリキュラムを実践することで、「実社会での課題解決力」「多角的視点で物事を捉える力」を伸ばしていくことも可能です。ただし、教員や学校独自の努力には限界があり、体制の維持、発展は非常に困難だと考えます。

大阪府立の学校では、ベテラン教員の定年退職に伴い、経験不足の若手教員が家庭科教育を維持していかなければならない状況です。しかし、「家庭基礎」が主流になっており、教員自身が「家庭一般」「家庭総合」に触れていないこと、専門学科で教員免許を取得できる大学が少ないこと、また殆どが一人配置であるため、身近に学びの機会が少ないこと等から、教科指導上の課題は少なくありません。学習指導要領では、5/10 を実験実習とするとしていますが、「実技に自信がない」「準備に時間と労力がかかる」「教科書でやらないといけないことが多すぎる」等、複合的な理由から、座学に偏りがちになっています。さらに、コロナによって様々な継承が途絶え、世代交代、業務の多忙化・複雑化は新しい挑戦をしたくてもできないという教員が多いと感じます。

本校でも、実習や地域連携等は明らかに縮小されましたし、5名の教員のうち、1名は定数内講師です。また、指導教諭が退職した後は新採が配置され、その指導を非常勤講師に頼っているのが現状です。他校では欠員のまま、未だに補充されていない学校もあります。

家庭科は、社会的価値観・文化的背景・政策の変遷が反映されやすく、常にアップデートが必要です。教員がやりがいをもって研鑽し続けられる支援体制が必要です。学校レベルでは、家庭科の教育的価値を他教科にも広めることや施設設備の更新予算を確保すること等できることはありますが、人材確保・教員の力量形成支援など中長期的な施策が望まれます。

家庭学科のない島根県の総合学科における取組

島根県家庭科研究会会長
島根県立宍道高等学校長

小 西 久美子

I 島根県高等学校家庭科の現状

1 島根県高等学校家庭科研究会加盟校の状況

令和7年度の「島根県高等学校家庭科研究会」に加盟している学校の状況は次のとおりです。

- ・加盟校は合計42校（県立高校33校、市立高校1校、私立高校校、特別支援学校高等部2校）
- ・常勤家庭科教員は管理職3名を含み71名（全日制43校に56名、定時制・通信制3校に12名、特別支援学校に3名）。

2 専門科系総合学科を設置する学校

島根県には家庭学科の設置はありません。本県最後の家庭学科である〔松江南高校宍道分校家政科〕は平成22年に募集停止になりました。「家庭類型普通科」であった〔出雲高校併設定時制〕と統合し、現在は〔宍道高校（定時制・通信制）〕となり、家庭科専門科目を複数開講し、多様な学習ニーズに対応しています。

昭和20年代、分校を中心に多くの学校で「家庭科」「被服科」が設置されていましたが、分校の閉校・統合とともに廃止されていきました。現在は、専門科系総合学科を設置する高校（邇摩高校・松江農林高校・益田翔陽高校）が県家庭科教育の基幹校となっています（表1）。これらの高校では、総合学科の特長を生かして、職業に直結した専門性を育成するとともに、生徒の興味・関心に応じた多彩な選択科目による学びを通して、幅広い知識・技能をもった将来の地域産業等を担う人材の育成を目指しています。

表1 総合学科を設置する学校

高校名	総合学科系列名	前身
松江農林高校	食品系列、福祉系列、地域系列	昭和63年「生活科」廃止 平成9年度 総合学科設置
邇摩高校	農業とくらし系列、みらいビジネス系列、食とこども系列、ひとと福祉系列	平成7年邇摩高校温泉津分校「家庭科」と本校とを統合して、総合学科設置
益田翔陽高校	生活文化・福祉系列 食品科学系列	平成6年益田産業高校家政科募集停止 平成7年度総合学科設置

II それぞれの総合学科系列の取組

1 島根県立松江農林高等学校の取組



（1）学校概要

- ① 設置学科・学級数・生徒数（令和7年5月1日現在）

3学科12学級（生物生産科3、環境土木科3、総合学科6）468人

② 学校の特徴

明治 33 年 (1900 年) に島根県農林学校として設立され令和 7 年度に創立 125 周年を迎えます。時代の要請に応えながら学科改編などを行い、現在は農業に関する学科として生物生産科、環境土木科の 2 学科と総合学科 (食品系列、福祉系列、地域系列) 2 学級の 1 学年 4 学級規模の高等学校です。

食品系列…地域食材を用いた製品開発などの実習を通して、食品製造や衛生管理の知識と技術を習得します。

福祉系列…福祉に関する専門的な知識と技術習得のための実習を通して、生命尊重の心を養います。

地域系列…島根の豊かな自然・食・伝統文化・産業を体験的に学ぶことを通して、地域社会の発展に寄与する力を身に付けます。

③ 教育課程 (教科「家庭」に関する科目)

学年	教科「家庭」に関する科目 (単位数)	
	共通教科「家庭」 ※必履修	専門教科「家庭」 ※選択
1	家庭総合 (2)	—
2	家庭総合 (2)	保育基礎 (4)
3		保育実践 (4) フードデザイン (2)

④ 進路状況 (令和 6 年度卒業生)

	就 職	進 学			
		四年制大学	短期大学	専門・専修	その他
総合学科	10.3%	24.4%	9.0%	53.8%	2.5%
全学科	26.8%	20.9%	7.2%	41.2%	3.9%

学部・学科の内訳については、四年制大学の約 25%は栄養、短大の約 50%は栄養又は保育、専門・専修学校の約 40%は栄養・調理・製菓又は幼児教育。

(2) 総合学科における家庭科教育の実践

身近な資源 (学校、行政及び地域社会) を活用した実践に取り組んでいます。

① 家庭総合

(資源:「食の学習ノート (高校生用)」(島根県教育委員会)、「しってるようで知らないしまねの暮らし。」(島根県)、本校で栽培した米、島根の特産品)

島根県は、生産年齢人口における女性の労働力率が 78.7% (全国 73.2%)、年齢別女性労働力の減少幅 (M 字型カーブ窪みの浅さ) は 2.2 ポイントで、いずれも全国 1 位。また、育児をしている女性の有業率は 86.8% (全国 73.4%) で全国 3 位。(令和 2 年度国勢調査) 一方で、育児休業制度を利用した男性労働者の割合 (2.5%) は上昇傾向にあるものの依然として低い状況です。

令和元年 4 月に現丸山知事が就任し、知事直轄の県女性活躍推進統括監が設置され、男性の家事・育児参加促進の取組がなされています。その取組の一つとして、知事が高校生に「男女が協力して家事・育児をする大切さ」を伝えたいと、生徒と一緒に調理実習をするという企画が実現しました。

題材は、生活設計、仕事と生活の調和、食生活の課題、日本の食文化、調理の基礎を複合して構成しました。



参照資料: 島根県公式 YouTube チャンネル

「しまねっこ CH」『男性の家事・育児を応援します～知事が高校生と調理実習～』

URL: <https://youtu.be/N-utRbR8tx4?si=0yxBD5oS92ZpU8k9>

② 保育基礎

(資源:「生の楽習(せいのがくしゅう)講座」事業(島根県)、松江市立幼保園のぎ、本校農場)

県子ども・子育て支援課が主管する事業を利用し、助産師と一般の親子ボランティアから、生命誕生の過程や命の大切さを学び、妊婦体験や乳児と直接触れ合う機会を設けました。



この他、学校の近くにある「松江市立幼保園のぎ」の園児を対象にした保育体験を年3回実施しています。そのうち1回は、4歳児約30人を本校農場に招待し、いも掘りの機会を提供しています。



③ 保育実践(資源:出雲かんべの里「民話館」)

令和4年度から保育に関する科目を4単位から8単位に増やしたことで高等学校家庭科保育技術検定1級を目指す生徒が出ることを見越して言語表現1級の課題である素話を聞く機会を設けています。現地に赴くことで昔話に登場する道具や室内のしつらえに直接触れることもできました。



④ 学校家庭クラブ活動

(資源:子ども食堂「さいかまんまる亭」、本校で栽培した農作物)

2年前から地域の子ども食堂で月1回ボランティア活動をしています。当初は、会場設営、料理の運搬・配食、利用者の小学生と待ち時間を過ごすなどの関わりでしたが、昨年度からは本校で栽培した野菜やさつまいもを届ける、製造したジャムを用いた手作りカップケーキを持参するなど、徐々に活動内容を広げようとしています。



(3) 実践の成果

- ・『体験を通して学ぶ』ことで、「赤ちゃん(命)って温かい」「自分たちが育てた米のおにぎりは甘い」など五感で感じたことと学習内容が一体となって記憶に残る学習となりました。
- ・近隣の地域資源を活用して保育に関する体験・実習の校外学習時間を従来の3倍にしたことで、高等学校家庭科保育技術検定の意味付けが明確になり、上位級や受検者が少なかった種目(音楽・リズム)に挑戦する生徒が増えました。

(4) 課題

実習・体験先を開拓して増やすこと、外部講師を招くための予算確保などが課題です。

2 島根県立邇摩高等学校の取組



(1) 学校概要

① 設置学科・学級数・生徒数(令和7年5月1日現在)

総合学科・学年3学級 計9学級・244人(1年85人、2年78人、3年81人)

② 学校の特色

学校が所在する大田市は、人口約3万2千人で、県の中央部に位置します。北部は日本海に面し、南東部には大山隠岐国立公園に属する三瓶山があります。そして中央部には平成19年7月2日に日本では14番目、鉱山・産業遺跡としては初の世界遺産登録となった「石見銀山遺跡とその文化的景観」があります。また、伝統芸能の「石見神楽」が有名で、本校には部活動として「石見神楽部」を設置しています。

明治36年に瀬摩郡立石東農学校として開校し、今年で122年目を迎えます。幾多の変遷を経て、平成7年に農業、商業、家政の専門学科高校から、島根県内初の単独総合学科高校となり、現在は4系列を設置しています。



「石見神楽部」公演の様子
(出典：大田市観光協会ホームページ)



瀬摩高校グランドデザイン

③ 教育課程（教科「家庭」に関する科目及び関連をもって運用する教科・科目等の編成）

（ ）：単位数 ※：学校設定科目

	必修科目	総合選択科目（モデル生のみで学習）		自由選択科目（他系列生と混成）
		食物モデル	保育モデル	
1年	家庭総合（2）			
2年	家庭総合（2）			ファッション造形基礎（4） 幼児教育音楽※（2）★
3年	総合的な探究の時間（2）	調理（6）	保育基礎（2） 保育実践（4）	幼児教育音楽※（2）★ 保育基礎（2） 栄養（2） 服飾文化（2）フードデザイン（4）

★幼児教育音楽は、保育モデル生のみを対象

④ 進路状況（令和6年度卒業生）

進学 52.7%（大学 17.9%短大 0%看護系専門 5.2%専門 76.9%）

就職 47.3%（県内 94.1%県外 5.9%）

（2）総合学科における家庭科教育の実践

資格や検定に挑戦したい、進学を目指したい、幅広く学びながら目標や進路を考えていきたいなど、総合選択科目にどのような自由選択科目を組み合わせるかで、同じ系列の生徒でも専門性の高さや幅広さが異なる集団が形成されます。

① 食とこども系列 食物モデル

ア.「フードデザイン」「調理」

食に関わる職業人や資格取得のための基本的な知識・技術を習得し、食物調理技術検定準1～1級の合格を目指しています。



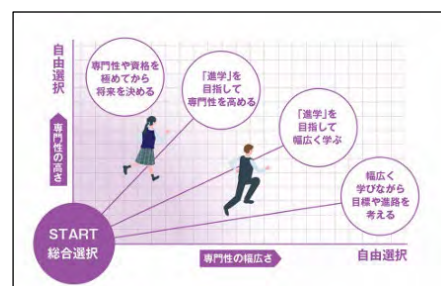
準1級作品



1級作品



和菓子実習



イ.「生活と器」(学校設定科目)

器の種類や特徴、用途、関連する技術(活用法・盛りつけ法など)を習得するとともに、地元の伝統産業である温泉津焼の陶芸作家を外部講師に招き、歴史・特徴への理解を深め、器の絵付け体験や完成した器を使った盛り付け実習等、実践的・体験的な学習活動を行っています。



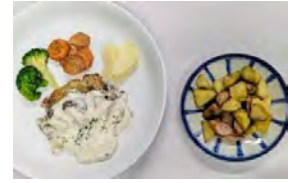
温泉津焼き工房見学



絵付け体験



盛り付け講習会



盛り付け実習

② 食とこども系列 保育モデル

ア.「フードデザイン」

将来、子どもと関わる職業や保育における食育を推進するための基本的な知識・技術を習得し、食物調理技術検定3～2級の合格を目指しています。

イ.「保育基礎」「保育実践」

保育の基礎的な学習と保育実習等の実践的・体験的な学習活動を通じて地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を養い、保育技術検定3種目(言語・造形・家看)1級合格を目指しています。



幼児食づくり



保育実習



壁面飾り制作



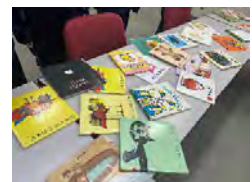
木育体験



仁摩小学校での読み聞かせボランティア活動



島根県立大学おはなしレストランライブラリー見学



ウ. 総合的な探究の時間

a 課題研究

2年間の基礎的な学習を土台に課題解決のためのテーマを個人またはチームで設定し、地域と連携しながら探究学習を行っています。



地元ホテル主催
「高校生レストラン」参加



道の駅でのメニュー開発



フードロス対策研究への協力



絵本の制作

b 瀬摩高フェア

系列学習を通して社会への理解や地域への愛着を深め、その成果を直接地域へ還元する場として毎年11月に瀬摩高フェアを開催しており、各系列・モデルが企画を考案し、来場者に提供しています。



食物モデル企画（レシピの提案、試食、学習内容紹介 など）



保育モデル企画（段ボールおもちゃ体験、おまつり体験、絵本のお菓子再現 など）

（3）実践の成果

本校は総合学科高校であり、実践の成果を専門性の高さや検定上位級の合格率だけでは計れない生徒を育成しています。自由選択科目で生徒が選ぶ系列外の科目もあります。現行教育課程完成年度であった令和6年度卒業生の3年間の時間割パターンは73通りでした。これは、卒業生74名中2名以外は他の誰とも異なる科目の組み合わせで学んだことになります。授業に集った生徒達はお互いの系列の専門性を持ち寄って協働し、他系列の価値観に触れながら視野を広げ、再び系列に持ち帰って学びを深めることをねらっています。

（4）課題

2・3年次の2年間で専門教科の基礎から検定上位級を目指せるまでの知識と技術を習得させるには、授業内の指導のみでは不十分です。そのため放課後や長期休業中も繰り返し生徒への個別指導を行いながら検定試験や探究学習活動を実施しています。授業時間以外の学習支援を組むのは教員生徒双方にとってスケジュール調整が難しいです。生徒も自由選択科目での課題や資格試験を同時に抱える場合もあるためです。さらに、自由選択科目は科目ごとに生徒の顔触れや基礎力が異なるため、生徒の実態に応じた授業準備や展開の工夫も必要です。例えば、同じ「フードデザイン」でも、食物モデル生・保育モデル生・自由選択科目生（系列以外の生徒）の3パターンを準備しなければなりません。家庭科教員は生徒の専門性向上に加え、「家庭総合」や「学校家庭クラブ活動」の指導、そして探究学習を進めるための外部との交渉や手続きなど、多忙な状況があります。

3 島根県立益田翔陽高校の取組



（1）学校概要

① 設置学科・学級数・生徒数（令和7年5月1日現在）

4学科（電子機械科・電気科・生物環境工学科・総合学科）各学科定員40名・全校生徒数346名のうち、総合学科110名（1年40名、2年40名、3年30名）

総合学科は、2年次より「食品科学系列」と「生活文化・福祉系列」に分かれます。

② 学校の特色

平成18年に、益田産業高等学校（大正10年開校）と益田工業高等学校（昭和38年開校）とを統合し、県内唯一の複合型専門高校です。現在は4つの専門学科を有し、本年度、創立20周年を迎えます。教育目標は、〔（1）旺盛な探究心を持とう（2）お互いの心を尊重しよう（3）郷土を愛する心を持とう〕です。

③ 教育課程（家庭科に関する科目編成（総合学科生活文化系列の必修科目と選択科目））

学年	教科（単位数）
1	家庭総合（4）・食品と福祉（2）（学校設定科目）
2	保育基礎（4）・フードデザイン（4）・ファッション造形基礎（4）
3	保育実践（4）・調理（6）・ファッション造形基礎（2）・住生活デザイン（2）・服飾文化（2）・食文化（2）

④ 進路状況

- ・令和6年度は就職54%、進学46%（総合学科は就職16%、進学84%）
- ・総合学科の過去5年間の就職率は10～40%。サービス業、製造業、介護に関するものが大半。
- ・例年進学者の割合が多く（60～90%）、国公立四年制大学から専門学校まで、管理栄養士・教育・保育士・看護師・福祉・その他の幅広い分野を希望する生徒に対応しています。

（2）総合学科における家庭科教育の実践

① 専門的な学びを生かした地域交流活動の実践

工夫点として、例えば、「地域の子育てサロン（全2回）」に参加する場合、1回目は見学や手伝いを中心として行い、2回目には授業で学んだことをもとに生徒でサロンの内容を一部企画させていただくなど、段階的に主体的な学びに繋げていけるようにしました。また、保育系の選択生だけでなく、ファッション系の科目選択生には、当日の衣装や、参加親子への手作り小物のプレゼントのための製作などコースをまたいで連携しました。この地域とのつながりを通して、将来は地元を一旦離れても、益田市に戻ってきたいと思う若者の存在を増やしていきたいと考えています。（図1～6）



図1 翔陽生企画「餅つき大会」



図2 浴衣着付け講座（講師：地域の方）



図3 園児と高校生で、お祭り用「ペットボトル提灯づくり」



図4 翔陽生企画
「ハロウィンパーティー」



図5 子育てサロン
「クリスマス交流会」



図6 「中世の食再現プロジェクト」
県立広島大学との連携活動

② 家庭の授業の積み重ねによる「個人研究活動」の充実

総合学科は、1年次に「産業社会と人間（3単位）」や「家庭総合（4単位）」の授業があり、地域連携や体験活動を豊富に取り入れながら行っており、ホームプロジェクトも年間3回程度実施します。2年次からの専門科目の授業では、地域とのつながりをより大切にします。地域の実態に合わせた学びや、時には地域の方を講師として招き、専門的知識・技術だけでなく、その方の生き方、暮らし方についても教わることができる時間としています。このように、1年次に「地

域や人について知ること」や「問題解決学習の基礎」を繰り返し、2、3年生でコースに分かれての専門的な学びや、地域のニーズをとらえた学びに結びつけています。そして、2年生の3学期から「総合的な探究の時間」の中で、個人研究のテーマ決めを行い、3年生から本格的に研究に取り組ませています。個人研究をより主体的に取り組み、深い学びにしていくために、それまでの家庭科の授業において、様々な見方・捉え方の機会を提供しておくことが大変重要です。

高校生は、研究を通して、計画の立て方や交渉の仕方、コミュニケーションの取り方など、学校内だけではできない貴重な経験を失敗しながら学んでいき、地域の方々は人生の先輩として、あたたかく支え、導いてくださいます。卒業生が学校を訪ねた際に、「課題研究は、とても大変だったけれど、あの経験が今の自分を支えている」と語るように、課題研究の取り組みは、生徒に絶大な効果をもたらしています。だからこそ、1年生からの家庭科目での学びは重要であり、地域と結びついた授業を今後も展開していきたいです。

(3) 実践の成果

① 地域交流学習や学校家庭クラブ研究活動の充実

島根県の中でも人口減少や少子高齢化が加速している益田市の状況を理解し、もたらす問題点を探り、解決していくために、家庭科の学びを活かした地域交流活動や家庭クラブ活動に力を入れて取り組んでいます。昨年度は、授業の中で30回を超える地域の方々と交流する場を設け(表2)、生徒自身が企画・運営するイベントにも繋げることができました。

表2 令和6年度の地域活動の一例

食物分野…鮎だし雑煮体験、高校生レストラン、中世の食再現プロジェクト、うどん教室、餅つき会など
 保育分野…保育園実習、提灯づくり、創作活動イベント(3回)、ハロウィン交流、子育てサロン(2回)
 被服分野…浴衣着付、民族衣装交流、はた織り体験、子育て応援(ベビーリュック等製作)、和裁講座
 住生活分野…文化施設訪問(グラントワ)、林業体験、製材工場見学、インテリア木工体験など
 その他の分野…エコな暮らし講座、海岸清掃、竹灯籠・しめ縄づくり体験など

これらの活動を通して、地域の方に大変喜んでいただき、活力をもたらすことができました。高校生にとっては郷土を愛し、専門的に学んだことで郷土に貢献できる経験を重ね、自尊心を高め、自らの将来の生き方を深く考えられる機会となりました。

② 学びの集大成「課題研究(個人研究)」につなげる

総合学科の3年間の学びの集大成である「個人研究」は、総合学科の学びを地域の暮らしに生かしたり、高校生が地域貢献できたりする貴重な機会となっています。令和6年度の個人研究においては、3年生の72%が地域の問題を捉えて、地域と連携した個人研究を進めるという成果が見られました(表3 図7～12)。また、連携先の地域の方や企業からの反響もあり、令和7年度も連携した取組を継続したいというお声をいただいています。

表3 令和6年度総合学科3年生の課題研究(個人研究)の地域連携したテーマの一例

○地域と手芸で交流を深めよう！	○ローリングストックで防災意識を高めよう
○祖母の悩みをグッズで解決しよう	○災害医療について学び、地域の方に防災対策をする
○益田のゆずをイメージしたドレスを作る	○食を通じて子供たちに楽しく行事を学んでもらう
○高齢者へのスマホ相談会を実践して	○子ども食堂プロジェクト～あたたかい場を作ろう～
○益田をイメージしたケーキをつくる	○特定原材料を使わないお菓子を作る
○ホースセラピーを利用した研究	○発達障がいの子どもたちとの関わり方
○折り紙が子どもにもたらす影響について	○手をうごかして認知症の進行を抑制する



図7 地域の子ども達と紙皿を利用した編み物ワークショップ
「編み物で地域と交流」



図8 さんさんの牧場との連携研究
「認知症や発達障害とホースセラピーに関する研究」



図9 高齢者向けスマホ教室
「高齢者によりよいデジタルライフを」



図10 地域の年配者に寄り添う活動
「祖母の悩みをグッズで解消しよう！」



図11 雪舟さんを題材に
「益田をイメージしたケーキをつくる」

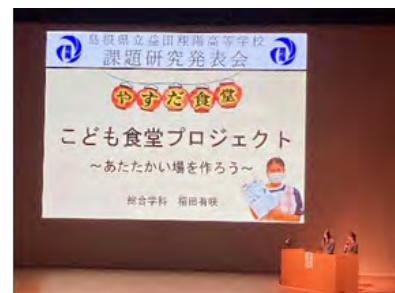


図10 課題研究成果発表
「こども食堂プロジェクト」

(4) 課題

家庭科教員の資質能力の向上と円滑な人事異動が課題です。本校は、交通の便が悪いことや専門教科の指導への不安から、異動希望を敬遠されとも聞きます。しかし、実際に勤務してみると、生徒と共に学ぶ機会も多く、予算や設備も充実しているため、自身の専門レベルを上げることがしやすい環境です。

持続可能な家庭科教育、地域活動を行っていくことです。おかげさまで地域の方との人間関係ができ、地域の方からもたくさんの声かけ（依頼など）してもらえるようになりました。異動等があることも想定すると、これまでの取組を引き継いでいくことが課題です。

Ⅲ これからの島根県家庭科教育振興に向けて

1 総合学科系列の取組の課題と今後の展望

島根県教育委員会が示す【県立高校魅力化ビジョン～後半5年間（令和7年度から令和11年度まで）の「具体的な取組」】には、次のように書かれています。

＜方向性＞

今後も、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図りながら、将来的に社会に貢献する基盤を培うためのキャリア教育を一層推進するとともに、社会の変化に対応できる資質・能力を引き出し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や、職業選択に必要な能力を育成するなど、特色ある高校づくりを目指す。

＜具体的な取組（令和7～11年度）＞

① 教育課程を工夫し、新たな系列の設置等について研究

○ 社会や生徒のニーズに応じた教育課程を工夫し、新たな系列の設置等について研究する。

- ・ 地域の文化、伝統工芸・芸能、豊かな自然など、地域資源を活用した探究的な学びを实践できる系列
- ・ 高等教育への進学を希望する生徒に対応できる系列
- ・ スポーツや芸術、情報処理、プログラミングなどに特化した系列

本県の総合学科高校には普通科系と専門学科系の総合学科があります。専門学科系総合学科の家庭に関連がある系列・コースで求められている「地域資源を活用した探究的な学び」は、引き続き発揮できるように努めていきます。そのために、他校、他県の取組の情報収集や、教員研修の設定など、家庭科研究会としても取り組んでいきたいと考えています。研究大会などにおいて、県内の教員がともに学ぶ関係づくりも大切にしていきたいです。さらに、社会や生徒のニーズに応じた教育課程の工夫について、県教育委員会と連携をしながら総合学科のさらなる魅力づくりを探っていきたいと考えます。

2 島根県家庭科研究会の組織改革

令和5年度まで「島根県家庭科研究会」「家庭科技術検定委員会」「家庭クラブ連盟」の3つの事務局を、教員複数配置の学校でそれぞれ事務局を持ちローテーションを組んで運営していました。しかし、複数配置校が減少し、それぞれ独立した役員と会計を持つ3つの事務局をローテーションしていくことが難しくなってきました。そこで、より合理的で実効性のある組織の在り方を検討し、各事務局の持続可能な運営を目指して令和6年度に組織改編を行いました。「技術検定委員会」、「家庭クラブ連盟」を、「家庭科研究会」の専門部会として位置づけ、会議体も統合し運営することとしました。本部事務局、専門部事務局はこれまでどおりそれぞれ別の学校が担当することとし、事務局ローテーションの見直しも行いました。

専門学科がなく、家庭科教員数が減少していく中で、総合学科での家庭科教育は県の家庭科教育を先導するものです。また、県内それぞれの学校をつなぎ、家庭科教育の充実を図っていく各事務局の役割も大きいことは変わりません。現状に柔軟に対応しながら、本県の家庭科教育の振興を図っていきたいと考えています。

地域住民と協同した防災活動の実践 ～高校生の果たすべき役割を考え、実行する～

宮城県伊具高等学校長 佐藤 真

I はじめに

本校は福島県に接する宮城県最南端の丸森町にあり、伊具盆地が阿武隈川で二分される風光明媚な土地に大正9年4月17日、仙南地方の産業文化の振興を担う人材育成を目的として郡立「宮城県伊具農蚕学校」として創立されました。その後、大正12年に当時の角南10ヶ町村の組合立学校、昭和14年4月に県立学校へ移管、終戦後の学制改革に基づき昭和23年4月に「宮城県伊具農蚕高等学校」と改称して、新制高校として新たにスタートしました。

昭和24年には普通科設置、翌昭和25年には男子部農蚕科を農業科、女子部を農村家庭科へと改編しました。さらに、昭和38年4月、現在の「宮城県伊具高等学校」へ校名を変更するとともに、農蚕科、普通科、農村家庭科を農業科、商業科、生活科へと学科改編し、平成4年4月には、地域社会の要請等に応えるために農業科・生活科を産業技術科・生活技術科へと再度学科の改編を行いました。このように幾多の変遷を経て、平成11年4月に生徒の多様なニーズに対応すべく1学年4学級（定員160名）の6系列（教養・農学・機械・電気・情報・福祉）からなる総合学科へと学科の改編を行い、その後さらに、地域の少子化の進行と生徒数減少へ対応する必要から、平成21年4月、1学年3学級（定員120名）の4系列（農学・機械・情報・福祉）へと変更し、現在に至っています。

本校では4つの系列を柱として共通教科から専門教科に至る数多くの教科・科目を設定して総合学科としての教育を推進しています。4系列はそれぞれ専門教科として、教科「農業」を主に学習する農学系列、教科「工業（機械）」を主に学習する機械系列、教科「商業」を主に学習する情報系列、教科「福祉」及び「家庭」を主に学習する福祉系列であり、総合実習棟、実習農場、温室及びコンピュータ実習室などの専門教科を学習するための施設や設備を活用して、それらの教育の充実を図っています。



大正9年	伊具農蚕学校（男子部農蚕科、女子部農蚕科（昭和18年）
昭和23年	伊具農蚕高等学校（養蚕科、農村家庭科、普通科（昭和24年））（入学定員130名）
昭和38年	伊具高等学校（農業科、生活科、商業科）（入学定員210名）
平成4年	（産業技術科、生活技術科、商業科）（入学定員160名）
平成11年	（総合学科＜教養・農学・機械・電気・情報・福祉＞）（入学定員120名）
平成21年	（総合学科＜農学・機械・情報・福祉＞）（入学定員120名）

Ⅱ 学校概要

1 校 訓

「質実剛健・穩健着実」

2 教育目標

総合学科の特色ある多様な教科・科目の選択履修を通じた教育によって、地域社会の将来を託すにふさわしい、「生きる知恵」にあふれた人材の育成を目指す。

- (1) 自主・・・自ら積極的に物事や学習に取り組む人間
- (2) 自律・・・自律的に社会生活をおくる人間
- (3) 責任・・・前向きで責任のある行動がとれる人間

3 重点目標

生徒一人一人の学校生活を充実させ、希望進路を 100%達成するために

- (1) 基本的な生活習慣を養成し、社会人としての資質・能力を身に付けさせる。
- (2) 基礎学力の定着を図り、希望進路を達成できる学力を身に付けさせる。
- (3) キャリア教育を組織的に推進し、勤労観・職業観を身に付けさせる。
- (4) 学校行事・部活動・地域連携活動の活性化を推進する。
- (5) 安心して学校生活が送れるよう、安全教育を推進する。

4 系列の目標

☆農学系列 … 生産物や自然環境に関する知識と技術を学習し、農学系への就職または進学を目指す。

☆機械系列 … 機械操作や制御などに必要な知識と技術を学習し、機械・工業系への就職または進学を目指す。

☆情報系列 … 情報処理やビジネスに関する知識と技術を学習し、有為な企業従事者または情報・経済系への就職または進学を目指す。

☆福祉系列 … 社会と家庭生活に必要な知識と技術を学習し、福祉・家政系への就職または進学を目指す。

重点目標 → (1) 基礎的・基本的な知識及び技術の習得

- ① ICT 機器の効果的な活用や定期的な確認テストの実施などを通して、基礎的・基本的な知識・技術を身に付ける。また、外部講師を活用し、専門的知識・技術の向上を図る。
- ② 実際の現場を想定し、安全かつ衛生的な実習の実施を徹底する。

(2) 地域との連携

- ① 丸森町役場や地域の福祉施設と連携し、高校生が地域の中で果たしていく役割について考え、行動する。

5 本校の現状と特色

(1) 令和 7 年度、創立 105 年目

全校生徒 154 名 (1 年 62 名、2 年 44 名、3 年 48 名)

- ・農学系列 17 名 (1 年 9 名、2 年 4 名、3 年 4 名)
- ・機械系列 75 名 (1 年 28 名、2 年 20 名、3 年 27 名)
- ・情報系列 27 名 (1 年 15 名、2 年 4 名、3 年 8 名)
- ・福祉系列 35 名 (1 年 10 名、2 年 16 名、3 年 9 名)

(2) 本校の4系列（農学・機械・情報・福祉）では、地域に根差した地元の高校として地域連携活動を積極的に学習活動に取り入れています。農学系列では、丸森町の「棚田プロジェクト」、小中学校との「フラワーバトンプロジェクト」、機械系列では「伊具高のカプロジェクト」と称して、小中学校へのドローンを使ったプログラミング指導、溶接加工実習で作製したゴミ集積所の寄贈、情報系列では地元の魅力発信のための「ふるさとCMプロジェクト」、地域飲食店とコラボしたオリジナル商品開発などを行っています。

福祉系列では、家庭科の学習も取り入れ、地域伝統食文化について学ぶとともに、「防災」についても学習の中に取り入れ、地域住民や小中学校、丸森町と協同で防災活動に取り組んでいます。

Ⅲ 地域との連携

1 家庭クラブの活動

令和元年10月12日、東日本台風が丸森町を襲いました。台風の通過に伴い、広い地域で記録的な大雨となり、宮城県を含む1都12県で大雨特別警報が発表されました。丸森町の筆甫（ひっぽ）地区（福島県との県境に位置する山里）では3日間の総雨量が600mmを越え、例年の10月の平均雨量の3倍の雨が降り続けました。山間部から流れてくる支流が阿武隈川に合流できず、内水氾濫を起こし、丸森町の中心部では床上浸水、山間部では土砂や土石流による被害を受けました。丸森町内では死者・行方不明者あわせて11人もの犠牲者が発生し、宮城県の犠牲者の半数を占める被害となっていました。住家被害は34市町村において約2万棟、非住家被害は5市町村において約80棟となり、特に丸森町では全壊・半壊が1,000棟を超える被害が発生し、最も甚大な被害となりました。

本校では台風被害を経験したことで見えてきた課題を明確にし、学校家庭クラブとしてできることは何かを考えて活動を行ってきました。



丸森町内（幹線道路）



丸森町内（高校前の民家）



伊具高校農場 1



伊具高校農場 2



避難所の小学校
（2か月半）

町内にプレハブ応急仮設住宅が完成し、
令和元年12月29日にすべての避難所を閉鎖



生徒用木製イスの経年劣化による、シャツへの色移りを防ぐために作ったイスカバーを活用して、寒い避難所の床や段ボールベッドの上に敷くことができる「お知り合いシート」を制作しました。

イスカバーを利用したの「お知り合いシート」の作製
(右がシートをつなげた時)

年に一度実施される丸森町の防災訓練では、高校生として何かできることはないかと町の防災マネージャーに相談したところ、「伊具高校体育館を防災訓練の会場（避難所）とした場合のレイアウトを考えてほしい。そして、防災訓練にも参加してほしい」との依頼を受け、「通路をつくること」「ペットを連れて避難してくる人も想定すること」などの様々な条件がある中で、家庭クラブ員で話し合い、レイアウトを考案しました。その後、避難所運営が順調に行われるために、防災用テントや段ボールベッドの組み立ての実践練習も併せて行いました。

10月5日(火) 家庭実習「いざ」に備えよう ～私の避難経路の危険な箇所は?～」

[方法] ① 大周による浸水被害を想定して、避難場所を決める。

② 自宅から避難場所までの地図を書く。(通る道は赤ペンで書く)

③ 避難経路の途中にある危険箇所を書き込む。(マンホールの蓋所・用水路・アンダーパスなど)

④ 所要時間を書く。

年 組 番 氏 名

[地図]

避難所 公園 学校 商店街 用水路 マンホール アンダーパス

危険な箇所 (マンホール)

避難所

避難経路

[避難経路を確認して気がついたこと]

- ・自宅から避難所まで徒歩で所要時間は約10分
- ・道路は狭いので、歩行者は注意が必要
- ・道路の両側に建物が密集しているため、火災の危険がある
- ・用水路は、大雨の時に水位が上昇する可能性がある
- ・マンホールの蓋が壊れている箇所がある
- ・アンダーパスは、大雨の時に水が溜まる可能性がある
- ・避難所の入り口は、大雨の時に水が溜まる可能性がある
- ・避難所の入り口は、大雨の時に水が溜まる可能性がある
- ・避難所の入り口は、大雨の時に水が溜まる可能性がある
- ・避難所の入り口は、大雨の時に水が溜まる可能性がある

[家を出発してから避難完了までの所要時間]

避難所 (公園) 避難所 (学校) 避難所 (商店街) 避難所 (用水路) 避難所 (マンホール) 避難所 (アンダーパス) 避難所 (避難所)



2021年(令和3年)11月29日(月曜日) 青森県 青森市 旗手

水害想定訓練 反省生かす

丸森町 300人参加

早期避難所開設に力

[illegible]

※自宅から避難所（避難場所）までの経路を作成したもの。マンホールや用水路の場所を把握して、安全な避難経路を作成する。

(3) 合い言葉の呼び掛け

丸森町の高齢化率は人口の40%を超えており、宮城県内で1番高いという現状です（2番目は七ヶ宿町、あまり差がない）。今後、ますます人口は減少し、高齢化率も高くなっていくことが予想され、防災の担い手不足の問題も起きてくることは間違いありません。災害は「自分の身にも必ず起きる」という意識を誰もが持つことが大切であると考え、誰もが覚えやすい「合い言葉」を作り、町内にも呼び掛けることにしました。

- 「い」・・・移動は早めに
- 「ま」・・・丸森町のみんなで
- 「こ」・・・声がけしよう
- 「そ」・・・備えよう

※月に1回、学校での活動を紹介する学校通信を丸森町全戸へ配布しています。

その一部に「伊具高校家庭クラブからのお知らせ」として、合い言葉と災害への備えの大切さを伝えました。



(4) 防災テント、段ボールベッドの講習会

避難所運営などで力になれる人を増やせばきめ細かな対応ができると考え、防災テント、段ボールベッド設営の講習会を行いました。また、毎年5月の防災避難訓練では全校生徒に向けて設営の仕方を実演し、10月の防災避難訓練では各クラスで防災テントと段ボールベッドの設営を行っています。校地内にある町の備品倉庫には防災テントや段ボールベッド以外にも防災グッズが保管されていて、確認作業も兼ねて実施しています。



防災テントと段ボールベッドの組み立て方を学ぶ講習会

段ボールベッド「すごく丈夫」



段ボールベッドに座り、強度に驚く生徒たち

丸森・伊具高で防災訓練

1978年に起きた宮城県沖地震から6月12日で45年になるのを前に、丸森町の伊具高（生徒158人）で29日、全校生徒が参加した防災訓練があった。避難所用テントや段ボールベッドの使い方を学び、防災意識を高めた。

宮城県沖で震度6弱の地震が起きたと想定。生徒たちは各教室で安全を確認した後、体育館に移動した。防災について研究する家庭クラブのメンバーが同校で管理する避難所用テントと段ボールベッドの組み立て方を説明した。

生徒たちはテントに入って広さを体感し、ベッドの強度を確かめ「すごく丈夫」「安定している」などと驚きの声を上げた。

家庭クラブ会長の3年芳賀愛花さん（17）は「全校生徒がテントやベッドを体験できたのは良かった。地震が起きても、避難所運営などで力になれるはず」と話した。

家庭クラブのメンバーが組み立て方を指導する風景 河北新報（地元紙）の記事

（5）災害時の食事づくり

実際の災害時において、手元にある限られた缶詰や食材で温かい料理が作れないか、いざという時に備えて実践することにしました。缶詰で簡単に親子丼を作ったり、ビニール袋で米を炊いたりしました。この方法を自分だけでなく、周囲の人たちに知ってもらうことも大切だと気付くことができました。



ビニール袋で米を炊く様子



防災アドバイザーの指導を受けながら調理する様子

（6）防災の大切さを伝える紙芝居の作制、読み聞かせ活動

「東日本台風を経験していない幼い子どもや、記憶が薄れてきている子どももいるかもしれない」「防災について話し合うきっかけになれば」と考え、防災の大切さを伝える紙芝居「いまこそ」を作制し、近隣の保育施設で読み聞かせ活動を行いました。読み聞かせを行うために町内の「読み聞かせボランティア養成講座」にも参加するとともに、より興味をもって聞いてもらうためにハンドパペットを作るなどの工夫をしました。



10月、11月の2日間を使い、角田市の子供たちが来校し、保育基礎の授業で紙芝居の読み聞かせや手遊びなどの活動を行いました。また、丸森町のたんぽぽこども園、ひまわりこども園や丸森小学校、舘矢間小学校など多くの施設との連携を行いました。



読み聞かせボランティア養成講座



紙芝居「いまこそ」 1



紙芝居「いまこそ」 2



たんぽぽこども園・読み聞かせ



ミネ幼稚園児・お見送り



館矢間小学校・読み聞かせ

(7) 地域の方々との「防災さんぽ」

丸森町竹谷地区の公園から指定避難所になっている本校体育館までの経路を確認する「防災さんぽ」を実施しました。当日、防災マップを活用しながら、避難経路や避難時の注意ポイントを住民の方々と確認し、一緒に学校まで歩きました。実際に歩いてみると、下り坂になって水が溜まってしまうところや電気がつかない暗闇の中、避難できるかなど様々なことに気付くことができました。

学校到着後は学校の敷地内に設置されている町の防災倉庫の中身を確認し、その後、校内で防災テント、段ボールベッドの説明と設営を行いました。住民の方にも一緒に組み立ててもらったり、体験してもらったりし、住民の方からは「初めてやってみたが、とても良い体験になった」「いざという時のために、こういう機会は大切ですね」「高校生と一緒に活動することは心強い」などの言葉をいただきました。

この交流は、生徒自身がより地域や防災について考える取組としては有意義なものであるとともに、地域の方の高校生に対しての期待も伝わってきました。この活動は町の広報誌や地元新聞にも取り上げられ、後日、別の地区の方からも「とてもよい取組ですね。私たちもやってみたい」との連絡を受けました。

防災さんぽ

ぜひ参加してください

●9月14日(木)13:30~15:50

●集合場所:竹谷住宅公園前(13:30)

竹谷地区の皆さんの関心が高い、「防災・減災」について楽しみながら散歩・体験し、確認しましょう。歩きやすい服装・靴でご参加ください！

丸森町竹谷地区に配付された広報ビラ



避難経路の確認を行っている様子



防災テント・段ボールベッドの紹介



竹谷地区の皆さんと一緒に安全確認をしながら「さんぽ」する様子



河北新報（地元紙）で取り上げられた「防災さんぽ」の記事

2 施設実習

介護職員初任者研修終了を目指す生徒は、夏季休業中に町内の高齢者福祉施設で実習に取り組んでいます。校内で受けた事前指導を生かしながら、ご利用者様とコミュニケーションをとり、レクリエーションを体験することができ、座学で得た学びを実際の実習で還元することの大切さを学んでいます。

実習では日々の授業では体験することのできない、入浴介助や排泄介助、食事介助といった実生活に関わる介助の見学や体験をさせていただいています。職員の方々から教科書には書いていないポイントや介助方法を教えていただき、より発展的な内容を学ぶ時間となっています。

（1）校内での介護実習事前指導

3年次福祉系列の介護職員初任者研修受講者6名を対象に、夏季休業中に行われる介護実習の事前指導を行いました。事前指導では、実習先の仙南ジェロントピア職員2名に来校していただき、施設利用にあたっての注意事項をはじめ、ご利用者様との会話の仕方について、デモンストレーションを通してとてもわかりやすく教えていただきました。また、生徒一人一人の個別の質問にも答える時間を設けていただき、実習前の不安を解消することができました。



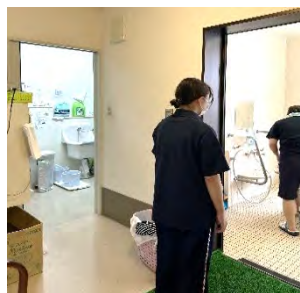
事前指導の風景

(2) 介護実習

仙南ジェロントピアでは、生徒1～2名ずつに担当者1名の配置で指導を行っていただきました。実習した生徒からは、「たくさんの人たちとコミュニケーションがとれて、すごく楽しかった。いい体験になったし、すごく大事な経験ができて、自分の進路に生かせる2日間でした」と報告を受けました。



介護実習の風景



入浴介助の見学

(3) 車椅子実習

福祉系列の授業で車椅子の体験実習を行いました。学校を出発して約750m先の店舗までの移動です。途中の信号や横断歩道をわたり、危険な個所を確認しながら障害のある気持ちになって実習を行いました。移動先の店内では実際に車椅子に乗ったまま買い物をさせていただき、店内の移動での不自由さや障害のあるサポートの仕方などを学びました。



道路を移動する風景



危険個所の確認

体験から学ぶ高齢者や障害者の気持ち 伊具高校福祉系列の実習

11月6日(月)、伊具高校福祉系列の生徒が、薬王堂宮城丸森店の協力で、車イスを使用した体験実習を行いました。

高校から約750m離れた店まで、勾配や段差のある場所での車イス操作や、高齢・障害者役の生徒への声掛けを行っていました。

生徒たちは、体験を通じて介護等の技術を学ぶだけではなく、相手の気持ちに寄り添った思いやりの心も育てていました。



丸森町広報誌での実習風景の紹介

IV おわりに

今回紹介した福祉系列の防災活動は、家庭クラブ研究発表会でも発表し、高評価をいただきました。新聞やテレビでも本校の地域連携活動が幅広く取り上げられ、特徴ある教育活動として多くの方に認知されるようになるとともに、丸森町の広報誌からも継続して取材を受けるようになったことで、伊具高校のイメージアップにつながりました。また、多くの広報活動により伊具高校と連携した取組を行いたいとの外部機関からの要望もありました。

今後も、自分たちの住む地域で地元の高校生として何ができるのか、地域のニーズをつかんだ教育活動を行い、本校の生徒にとって、地域連携活動が「地域社会の一員になるための準備」となるように積極的に町や幼保小中学校、各種団体と連携を図りながら引き続き取り組んでいきたいと思ひます。

普通科高校における家庭科教育の取組 ～地域とともに育む、自立する力、つながる力～

和歌山県立耐久高等学校長 戸川 しをり

I はじめに

本校の位置する湯浅町は、和歌山県の中中部西岸にあり、周囲を海と山に囲まれ、自然環境に恵まれた温暖で風光明媚なところ。古代より熊野古道の宿場町として栄え、熊野古道が唯一歴史的な市街地を通る町としても知られています。

紀州湯浅は、平成29年に『「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地紀州湯浅』として日本遺産に認定されました。醤油は鎌倉時代、宋で修行を積んだ僧が伝えた「金山寺味噌（きんざんじみそ）」から生まれたのが始まりと言われています。醤油醸造などの商工業を中心に発展したまちなみには、重厚な瓦葺きの屋根と繊細な格子が印象的な町家や土蔵が建ち並び、老舗醸造蔵から醤油の香りが漂います。また、他にも、あじ・さば・しらすなどの海の幸、有田みかん・三宝柑の柑橘類など、豊かな自然が育んだ特産品がたくさんあります。



II 本校の概要



1 沿革

本校は、濱口梧陵（儀兵衛）、濱口東江（吉右衛門）、岩崎明岳（重次郎）の三氏が、幕末の国際情勢に備える人材養成のため、1852年（嘉永5年）広村（現広川町）に「自学自労」の教育方針で開いた稽古場に始まります。校名は、稽古場の名「耐久社」によるもので、この名前には学舎がいつまでも永く続き「自学自労」の精神に満ち溢れた人材が育ちますようにという三氏の熱い想いが込められています。その後、「耐久学舎」、「私立耐久中学校」、「県立耐久中学校」を経て、戦後の学制改革により、「有田高等女学校」と統合して、現在の「和歌山県立耐久高等学校」に引き継がれています。今日まで170年をこえる歴史と伝統を持つ全国でも有数の古い高校の一つです。

なお、濱口梧陵は英国人作家ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が「LIVING GOD」（生ける神）と題して世界に紹介した作品のモデルとしても有名です。また、国連において11月5日が「世界津波の日」と制定される基になった逸話「稲むらの火」の主人公としても知られています。



和歌山県立耐久高等学校



校庭の濱口梧陵像

2 校訓・校風

本校の校訓は、「真 健 美」です。これは、1904 年、「耐久学舎」の舎長である宝山良雄氏が古い歴史と伝統をますます拡張し、発展させようと制定した三綱領「真 美 健」に由来するもので、本校ではこの理念を今日に至るまで受け継いでいます。

真：真理を研究し言行を誠実にすべし

美：情操を涵養し徳義を尊重すべし

健：身心を鍛錬し意志を強固にすべし



2024 センバツ甲子園 全校応援

また、校風は「文を修め、武を練る」で、勉学、部活動、学校行事等に全力で取り組み、学校生活全体を充実させる気概は、現在の生徒たちにも脈々と受け継がれています。

3 スクールポリシー

(1) アドミッション・ポリシー

- ・自分の可能性を信じ、学びを深め、地道に学習に取り組もうとする生徒
- ・学校行事や部活動等にひたむきに取り組む、高校生活を前向きに送ろうとする生徒
- ・素直な気持ちと誠実な態度で、他人を理解しようとする生徒
- ・地域の良さや魅力に気づき、地域社会を大切に思う生徒
- ・異なる文化や言語、考え方を理解し、海外での生活を経験したいと思う生徒

(2) カリキュラム・ポリシー

- ・自己の進路目標を明確にするため、社会で活躍したり、大学で研究したりしている本校卒業生を招いたプログラムにより、働く意義や学びの目的を考えます。
- ・自ら設定した目標を実現するために必要とされる学力を身につけるため、ICT を活用した授業等多様な学習活動を行います。
- ・得意分野を伸ばし、苦手分野を克服するため、個人の学習状況に応じたクラス編成を行います。
- ・部活動等の自主的な活動を促すため、65 分 5 限の授業を行い、授業時間とともに放課後の時間を確保します。
- ・未知なることに挑戦しようとする活力と他者と協働する力を育てるため、多くの学校行事やボランティア活動において、生徒による運営の機会を設けます。
- ・国際感覚を養い、国際理解の精神を育てるため、アメリカへの短期留学や「アジア・オセアニア高校生フォーラム」への参加を促します。
- ・自己の在り方生き方を考えるため、耐久の歴史と伝統についての学習や地域社会の問題を解決する学習を行います。



(3) グラデュエーション・ポリシー

- ・自分の可能性を最大限に広げ、自ら設定した進路目標を達成する力をつけた生徒
- ・自分の困難さや苦しみを見つめ、粘り強く、創造して解決しようとする生徒
- ・自他を尊重し、多様な在り方を認め、協働して課題の解決を図ろうとする生徒
- ・地域の様々な分野で、自分の力を惜しみなく発揮する品格と活力を備えたローカルリーダーとなる生徒
- ・グローバルな視点を持ち、国際社会の一員として行動できる生徒

4 教育システムの特徴

本校の教育システムにおける特色については、2年次からの「Progress」と「Advance」の学級編成があります。生徒の学習実態に応じたこの学級編成は、クラス単位でのまとまりと落ち着いた環境での学習を保障するためのものです。Progress クラスは、少人数の特性を活かした1クラス約30人の編成で授業を行います。学習指導や生徒指導において、きめ細かな対応が可能で、生徒に丁寧に寄り添い、学力や意欲の底上げを図り、効果を上げています。一方、Advance クラスでは、1クラス約40人の編成で、生徒はお互いに切磋琢磨しながら学習に取り組み、実力を高めています。

また、本校では県内唯一の「65分授業」を実施しています。グループワークや発表などの生徒の主体的な学習活動と小テストや宿題の確認など学力の定着を目的としており、時間割はA週とB週の2種類があります。放課後の部活動や生徒会活動等を充実させるために、授業開始時刻は他校に比べて、若干早めの設定としています。

授業改善や授業力向上の取組としては、毎年、授業力向上WGを立ち上げ、全教員が年1回の研究授業（公開授業）を行うなど、指導方法の工夫改善に努めています。

令和7年度入学生 教育課程表（2週間あたりのコマ数 1コマは65分）

3 年 文	論理国語	古典探究	文学国語	政治・経済	日本史研究	総合数学	国語表現	理科研究	体育	英コミュⅢ	論理・表現Ⅲ	総探			
					地理研究		数学研究	生物研究							
					世界史研究		英語研究	演義研究							
							体育研究	美術研究							
	3	5	3	4	6	6	4	6	3	6	4	2			
3 年 理	論理国語	古典探究	文学探究	地理研究	数学ⅢC	物理	化学	体育	英コミュⅢ	論理・表現Ⅲ	総探				
				政治・経済	数学探究	生物									
	3	4	3	4	10	6	7	3	6	4	2				
2 年 文	論理国語	古典探究	文学国語	公共	日本史探究	数学Ⅱ	数学B	地学基礎	生物	家庭基礎	保健	体育	英コミュⅡ	論理・表現Ⅱ	総探
					地理探究				芸術Ⅱ						
					世界史探究										
	3	3	3	3	4	6	3	3	4	3	2	3	6	4	2
2 年 理	論理国語	古典探究	公共	地理探究	数学Ⅱ	数学B	物理基礎	化学	家庭基礎	保健	体育	英コミュⅡ	論理・表現Ⅱ	総探	
							生物								
	3	3	3	3	8	3	3	3	3	3	2	3	6	4	2
1 年	現代の国語	言語文化	歴史総合	地理総合	数学ⅠA	化学基礎	生物基礎	芸術Ⅰ	情報Ⅰ	保健	体育	英コミュⅠ	論理・表現Ⅰ	総探	
	3	4	3	3	9	3	3	3	3	2	4	6	4	2	

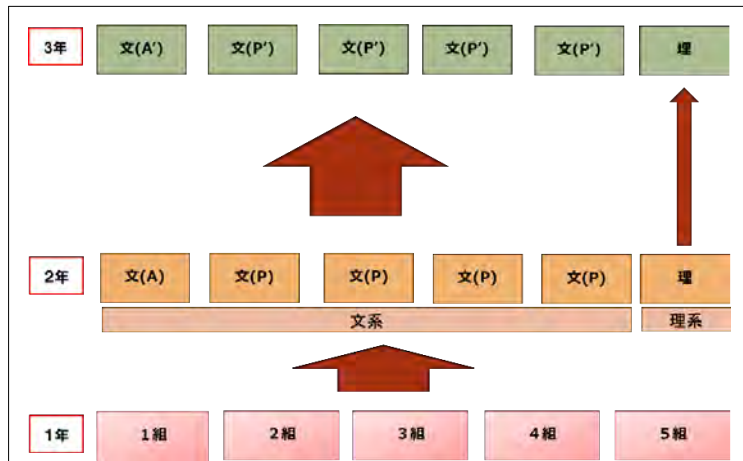
日課表

普通時令(65分)	
予鈴	8:10
SHR	8:15～ 8:25
I	8:30～ 9:35
II	9:45～10:50
III	11:00～12:05
昼食	12:05～12:45
IV	12:45～13:50
V	14:00～15:05

火・木は6限授業

VI (50分)	火曜日	木曜日
	総探	LHR
	15:15～16:05	

クラス編成



Ⅲ 本校の家庭科教育の実践

現在本校では、2年次に「家庭基礎」（2単位）を履修することとし、3年次には「生活研究」を学校設定科目として、文系コースの選択科目に開設しています。学校設定科目「生活研究」の選択群には、他に「国語表現」「数学研究」「英語研究」「体育研究」があり、文系生徒は自分の進路あるいは興味関心にあわせて、いずれかの科目を選択します。令和7年度の「生活研究」選択生徒は12名（文系コース140名のうち）です。選択生徒は家庭科に興味があり、授業にも意欲的に取り組んでいます。「生活研究」選択生徒の人数は、実習等の関係で制限を設けていますが、例年、概ね制限人数内で収まっている状況です。

以下、必履修科目「家庭基礎」、学校設定科目「生活研究」について、体験的な実習の例を紹介します。また、カリキュラム外ではありますが、家庭部が和歌山県栄養士会と連携して行った取組も紹介します。

1 家庭基礎

科目名：家庭基礎 単位数：2単位 対象：2年生 履修形態：必修

到達目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて学ぶなかで、基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、国際化・情報化が進展し生活様式の多様化が進む現代社会において、男女がともに主体的に生活を営み、生活の充実・向上を図る能力と実践的な態度を育成する。		
学習内容	生活設計 住生活	青年期と家族 経済計画・消費生活・環境	衣生活 保育 高齢期 共生社会 食生活
評価の 3観点	①知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。	
	②思考・判断・表現力	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	
	③主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	

＜ 布絵本制作 ＞

本校では、家庭基礎の保育分野・衣生活分野の学習として、2年生全員が毎年、布絵本を制作しています。限られた授業時間の中で、子どもの成長と発達について理解を深めるとともに、裁縫技術の習得を目的に実施しています。生徒には布絵本制作に入る前に、計画用紙No.1、No.2を配付し、留意事項を踏まえたうえで、計画的に取り組むように指導を行っています。また、生徒が内容を考えて、計画を立てる際の参考として、布絵本の評価基準、進め方の目安時間を示しています。生徒たちの布絵本制作に対する取組は、大変前向きであり、毎年、工夫を凝らした完成度の高い作品が制作されています。近年は少子化に伴い、生徒たちも幼児と接する機会が少なくなっていますが、布絵本制作を通して、幼児理解力、創造力と表現力、計画力と時間管理能力、裁縫の技術力、問題解決能力等を身につけることができきています。制作した作品は、文化祭に展示し、全校生徒、保護者や地域の方々に見てもらう機会としています。今後は、生徒たちが地域の保育所、こども園、幼稚園に訪問し、幼児と交流しながら、布絵本を実際に使ってもらう取組を計画しています。学年全員での訪問は受け入れ先の規模から難しいこともあり、課業外の希望者による訪問から進めていく予定です。

家庭基礎 布絵本 計画用紙 No. 1

2年()組()番()

☆ 布絵本を製作する前に、内容を考え、計画を立てよう！ 留意事項をしっかりと確認しよう！

留意事項 - 表紙・裏表紙と見開き1展開の内容を考える。 - 製作する授業時間は10分程度程度とする。持ち帰ることはできません。(時間内に完成させることができる内容、自分で完成させられる内容を考えてよう) - 対象とする乳幼児の年齢とねらいを考えて計画する。(No.2に記入) - 乳幼児が使用することを前提とし、安全性を考慮した内容で計画する。 『土台のフェルトを4枚仕上げる ⇒ 土台フェルトを2枚ずつ合わせて手縫いで縫い合わせる』という作業手順を想定して計画する。 - 図案や文字は「フェルトシールを貼る」、「フェルトを縫い付ける」、「刺しゅうをする」のいずれかで表現する。(ペンで描く、紙を使用するのは不可) - セットの材料で不足する場合は、各自材料を持参してもよい。ただし、フェルト、布、レース、リボン、ボタン等とする。(既製品をそのまま使用するのは不可)	自分が製作する布絵本の内容を記入し、色を塗って仕上げる。計画用紙を2枚 (No.1・No.2) そろえて (ホッチキスやクリップなしでOK) 8月25日(月) クラスで出席番号順に並べて日直が提出してください。
---	--

家庭基礎 布絵本 計画用紙 No. 2

2年()組()番()

(展開①)

(展開②)

対象とする乳幼児の年齢 (0～5歳の間で、自分で設定)	この絵本のねらい・目的
()歳	

No.21 家庭基礎 布絵本の評価基準／進め方のめやす／進捗チェックシート

2年()組()番 氏名()

絵本完成後出！なくさないように！

1 評価基準 学年末成績に含みます。計画的を立てて、しっかり取り組もう！

縫製 (パーツ)	縫製 (本体)	全体の仕上げ	製作態度・提出物
・パーツを縫っているか (シールで貼るだけよりも縫う方が点数は高い)	・2枚ずつきれいに重なっているか	・「見開き1ページ+表紙+裏表紙」をすべて製作できているか	・製作手順を理解し、正しく進められたか
・針目がそろっているか	・本体のページを縫い付ける針目の幅・間隔がそろっているか	・全体的にきれいに切ったり縫ったりできているか	・目標を立てて達成することができたか
・ボタンなどがつけられているか	・まっすぐ縫えているか	・オリジナリティがあるか	・全体を通して自分から積極的に活動することができたか
・丈夫につけられているか (縫うまたは貼る)	・糸の始末がきれいにできているか (縫い始め・縫い終わり)	・子どもが安全に遊べるか	・毎時間の振り返りシートをきれいに記入できたか
		・子どもが楽しめるか	・締切を守って提出したか

※ 無断で持ち帰った場合や提出期限を守らなかった場合は、減点とします。 ※ 欠席者は放課後に補習します。

2 進め方の目安

※あくまで目安なので、自分のペースでOK！提出期限はしっかり守ろう！

回数	内容	備考
1	テーマ決定・下絵 (大まかな案) づくり	★計画用紙は、2枚 (No.1・No.2) そろえて指示された期限までに仕上げて提出。
2	各パーツの裁断	
3		
4		
5		
6	各パーツの縫製	進捗度合いの確認 (中間地点)
7		
8		
9	各パーツを本体 (絵本自体) に縫い付ける	
10		
11		★最終提出 (持ち帰りはできません)

※ 疑問点やわからないことがあれば、すぐに聞いて解決するようにしてください。

進捗チェック 毎時間記入

本日の作業内容や目標を記入して、授業の最後に進捗をチェック！

○：よくできた／目標まで進んだ
△：一部よくできた／少し遅れぎみ
×：よくできなかった／とても遅れている
Help：困ったことがある

	月/日	本日の目標 (作業内容)	進捗チェック	反省・感想／次の目標
1	/			
2	/			
3	/			
4	/			
5	/			
6	/			
7	/			
8	/			
9	/			
10	/			

布絵本を作った感想 (完成してから書きましょう)	
良かった点・頑張った点	改善点 (もう少しこうしたい方がよかったなど)



布絵本 生徒作品

2 生活研究

科目名：生活研究

単位数：3単位

対象：3年文系

履修形態：選択

到達目標	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどに関する知識と技能を習得し、食事を総合的にデザインする能力と実践力を身につけるとともに、食育への関心を育てる。	
学習内容	生活研究で学ぶにあたって ライフステージと食事計画 調理の基本 日常食の献立（食品の特徴） 実技試験に向けて	
評価の3観点	④知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得し、食事の意義と役割について総合的に理解している。栄養と食品について、調理と関連させ、食材を適切に選択し、調理から食事までを総合的にとらえて計画・実践することができる。
	⑤思考・判断・表現力	健康と食生活のかかわりについて栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートに関する知識を活かして、家庭や地域で積極的に活用していくことができる。食の安全や地球環境に配慮した食のありかたを考えることができる。
	⑥主体的に学習に取り組む態度	健康と食生活について栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートに関心を持ち、さらには食育の推進に寄与する能力を身につけている。サービスの基礎、楽しい食卓づくりについて考え、適切な食事空間をデザインしようとする実践的な態度を身につけている。

(1) 和歌山の名産品・特産品を使った調理実習

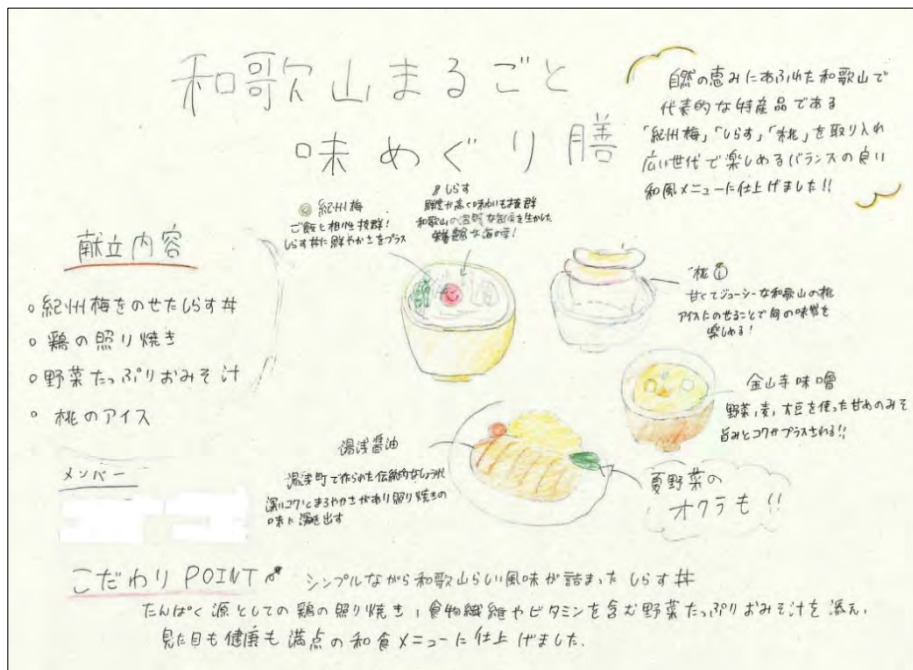
和歌山県では、果樹をはじめ全国一位の生産量を誇る品目や、地域に根ざした特産品など、高品質で多様な農林水産物が生産されています。地域の産物や料理について知り、自らの郷土への関心を向上させるとともに、その良さを他者に伝える力を身につけることをねらいとし、和歌山の名産品・特産品を使った調理実習を実施しています。その授業の一環として、本校の所在地である湯浅町は醤油の発祥地として知られているため、近くの醤油製造・販売店を訪問させていただき、湯浅醤油や味噌について学びを深める取組を行っています。今年度は3～5人1組のグループで、醤油や味噌を活用した献立作成及び調理を行い、数名の教員に提供しました。生徒らは、自らが献立作成をする難しさを感じながらも、名産品・特産品の魅力により引き出すためにはどのような工夫が必要かを話し合って献立を作成し、限られた授業時間の中で調理を行うことで、協働力や企画・提案する力を身につけることができています。料理を試食した教員からも「栄養バランスが良くて健康的な献立」「地域の名産品がしっかり使われていて美味しい」との感想をもらい、生徒は達成感を感じることができています。



地元の醤油製造・販売店での学習



生活研究 No.8			
3年()組()番 氏名()			
和歌山県の名産品・特産品を使った料理をつくろう！			
(1) 対象 3学年 生活研究 選択生(3年1,2,4組) 計12名			
(2) 目標			
① 和歌山県の名産品・特産品について調べ、その良さを他者に伝えることができる。			
② 本校近隣の醤油製造・販売店を訪問し、名産品・特産品についての理解を深める。			
③ 和歌山県の名産品・特産品の良さを活かして献立を作成し、調理・提供する。			
(3) 学習の展開(全6時間)			
1 1時間	2 1時間	3 3時間	4 1時間
●和歌山県の名産品について調べ、特徴を知ろう！ ・名産品に関する事前アンケートに回答する ・学習の流れを確認する ・グループに分かれる ・インターネットで調べる ・調理上の特性を知る	●地域の醤油製造・販売店「丸新醤油」を訪問し、名産品について理解を深めよう！ ・商品を見る ・試食させていただく ・活用したい商品を選ぶ	●和歌山県の名産品を使った料理を考えよう！ ・活用する名産品を決める ・一汁二菜の献立を作る ・50分以内に手際よく作れる献立を考える ・醤油、魚、野菜を必ず使う ・栄養素が多く摂れる工夫をする ・献立紹介カードを作る	●和歌山県の名産品を使った料理を作って提供しよう！ ・手順よく50分以内に作る ・班で協力する ・盛り付け方を工夫する ・お世話になっている先生方に提供し、試食してもらう ・ふりかえりをする(宿題)
(4) 参考資料			
一汁二菜一 		一献立紹介カード(例)一 	



和歌山の名産品・特産品を使った献立

(2) 調理技能試験

学校設定科目である「生活研究」では、食品の調理上の性質等を理解し、日常食の調理ができるようになるとともに、献立作成の基礎となる事柄や各種調理法の特徴・要点を理解できるようになることをねらいとしています。「生活研究」では、生徒全員が全国高等学校家庭科食物調理技術検定3級、2級を受検することとしています。生徒たちは、指定された条件に従い、献立を40分以内で完成させる「調理」を通じて、自ら問題を発見し、その解決に向けて自らの考えを明確にして他者と共有し、他者からの評価を得て振り返る問題解決的な学習を行うことができます。さらに、この学習を繰り返すことで、生徒一人一人が学習内容についてより一層、理解を深めることができます。また、「目測」及び「筆記試験」の受験対策を通じて、これまで以上に調理に関する興味関心を深め、授業中だけでなく日常生活においても食に関する視野を広げることにつながることが見込まれます。この学習過程の体験により、将来、生徒たちが一人暮らしをしたり、自らや家族の食生活を考えたりすることを想定して、主体的に食生活を送るための力を培っていきたいです。さらに、生徒たちに達成感を得ることにより自信を持たせるとともに、生徒自身や家族の食生活の充実を目指した実践的な態度の向上につなげたいと考えています。

3 家庭部と和歌山県栄養士会との連携

本校と公益社団法人和歌山県栄養士会が連携し、和歌山県食育実践地域活動支援事業として、本校家庭部の生徒が、食育研修プログラム（講習会及び調理実習）を受講しました。講習会のテーマは「食事と健康づくり」、調理実習のテーマは「家庭の味、和歌山の味を知る」で、生徒たちは、栄養士会の方からの指導を受けながら、意欲的に取り組んでいました。近年は少子化が急速に進み、核家族化と相まって、地域や家庭の食文化を継承していくことが困難になっている状況です。このプログラムを通して、生徒たちは和歌山県の郷土料理を理解するとともに、自身の食生活や健康についての意識を深めることができました。なお、このプログラムを受講した生徒たちは、「わかや

ま青少年食育推進員」の委嘱を受け、高校在籍期間中「地域の食文化の継承」や「正しい食生活」に係る啓発活動を行っています。



食育研修プログラム（講習会）



食育研修プログラム（調理実習）



Ⅳ おわりに

和歌山県では、家庭科専門学科を設置していた市立高校が 2023 年度末で閉校となり、現在、家庭科の専門学科が存在しない状況です。また、学校規模の縮小に伴い、県内の高校では家庭科の教員が 1 名のみの配置校が多く、非常勤教員のみで家庭科の科目を担当している高校も少なくありません。このような状況で、家庭科の教員が校内で、複数の教員で相談しながら、連携しながら授業づくりができる環境ではありません。家庭科教育の充実・発展を図っていくためには、学校の枠を超えた教員同士の学びが重要となり、そのための環境整備も一層必要になります。

家庭科は、生徒たちが生涯にわたって自立した社会生活・家庭生活を送るために必要となる知識や技能、考え方を学ぶ大変重要な教科です。また、新学習資料要領では金融教育等、家庭科で学習すべき内容が増えており、社会がめまぐるしく変わり、私たちの生活や生き方も多様になっていく現在において、家庭科教育の重要性は益々高くなっています。しかしながら、普通科高校である本校においては、ほとんどの生徒が在学中、必修科目「家庭基礎」（2 単位）のみの履修で、限られた時間数での学習になっています。本校では、その中で、できる限り実習や体験を取り入れながら、地域社会との連携を深め、工夫しながら家庭科教育に取り組んでいます。次世代を担う生徒たちが、社会的にも家庭的にも自立した社会人として将来を歩めるよう、これからも家庭科教育の一層の充実に努めてまいります。

総合学科高校における家庭科教育の取組 ～地域を支える人材育成を目指して～

鳥取県立米子高等学校長 永 江 靖 幸

I はじめに

鳥取県立米子高等学校は、昭和48年4月、鳥取県立法勝寺高等学校と米子市立米子高等学校とが統合され、米子市街地から南に5kmの現在地に普通科高校として創設されました。平成2年度には、生徒の個性伸長を目的にコース制が導入されました。同時期、鳥取県の国際交流振興も相まって、平成3年度には県内高校初の海外研修旅行を韓国に実施し、釜山デザイン高等学校（現韓国造形芸術高等学校）との交流を開始しました。また、平成5年度には、米国のセント・トーマス・アクワイナス高等学校に短期留学生を派遣しました。韓国への研修旅行は平成23年度をもって廃止しましたが、両校との交流は相互交換プログラムとして定着しました。令和5年度末に、先方の学校の組織改革で交流は中断されましたが、令和6年度からは、新たに江原外国語高等学校と姉妹校提携を結び、両校の発展を祈って語学交流と文化交流のスタートを切ったところです。平成10年度から平成16年度末までに鳥取県立高等学校を対象とした高校教育改革が実行され、そのパイロット校として平成10年度、4学級を募集定員とした総合学科が設置されました。今年度、総合学科設置後28年目を迎えています。

米子高等学校は、総合学科に移行する前には毎年のように定員割れが続き、1クラス分の退学者が出るなど教育活動の時間の大半が生徒指導に費やされる教育困難校でありました。当時の中学校では、教員が生徒に対し「勉強しないと米子高校に行くことになるぞ」と中学生にハッパをかけていることが真しやかに話されていたのが実状でありました。現在の状況からすると米子高等学校は総合学科に移行して生まれ変わったと言っても過言ではありません。

II 学校の概要

1 沿革

- | | |
|-------|--|
| 昭和48年 | 鳥取県立米子高等学校が普通科高校として開校
(鳥取県立法勝寺高等学校と米子市立米子高等学校が統合) |
| 昭和56年 | 体育コース1学級設定 |
| 平成2年 | 4コース制設定(国際教養、体育、工芸・デザイン、情報・サービス) |
| 平成3年 | 鳥取県内初の海外(韓国)研修旅行を実施
(釜山デザイン高等学校(現韓国造形芸術高等学校)と交流開始) |
| 平成5年 | 米国セント・トーマス・アクワイナス高等学校と交流開始 |
| 平成7年 | 国際教養コースを国際・福祉コースに改編 |
| 平成10年 | 鳥取県内初の総合学科高校としてスタート(自然科学・国際文化・情報ビジネス・生活福祉・健康スポーツ・工芸デザインの6系列を設置) |
| 平成29年 | 「地域学校推進活動」に係る文部科学大臣表彰受賞 国公立大学11名合格 |
| 令和4年 | 創立50周年記念式典举行 |
| 令和6年 | 江原外国語高等学校と姉妹校締結(韓国造形芸術高等学校との交流終了)
新6系列の設置(文理探究、グローバル・スタディーズ、ビジネスプランニング、保育・福祉、ライフ&スポーツ、総合芸術) |

2 在籍生徒数と各系列生徒数（令和7年4月現在）

○在籍生徒数

	男	女	計
1年次	48	103	151
2年次	47	90	137
3年次	49	91	140
計	144	284	428

※生徒数における男女比は、概ね3：7程度で推移

○各系列の生徒数とその割合

2年次生（137人）						
系 列	文理探究	グローバル・スタディーズ	ビジネスプランニング	保育・福祉	スポーツ＆ライフ	総合芸術
選択者数（人）	39	20	10	16	30	22
割 合	28%	15%	7%	12%	22%	16%
3年次生（140人）						
系 列	自然科学	国際文化	情報ビジネス	生活福祉	健康スポーツ	工芸デザイン
選択者数（人）	30	28	13	19	34	16
割 合	21%	20%	9%	14%	24%	12%

※系列の選択は、世相を反映し、近年は、大学進学を目指すための系列選択者が多い

3 教育目標

生徒の個性・能力の伸長を図りながら、確かな学力の育成と豊かな人間性の涵養に努め、他者と協働し地域の未来創造に貢献する人材を育成します。

◇中長期目標（学校ビジョン）

1 ランク上を目指す進学指導・就職指導を柱として、地域連携や探究学習・語学学習を推進し、基本的生活習慣の確立と部活動の活性化によって、自立心と自己有用感を育み、主体性と創造性の伸長を図ります。

4 スクール・ミッション及びスクール・ポリシー

◆スクール・ミッション（社会的役割）「このような意義や役割を担っています」

総合学科における多様な学びや地域貢献活動と一体となった探究活動や文化・芸術活動を通して、新しい価値を創造する力を身に付け、相互に支え合い、認め合う共生社会の実現と地域の未来創造に貢献する人材の育成を目指します。

◆総合学科スクール・ポリシー

◇グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針） 「このような力を育てます」

- ・自分自身の個性や特徴を自覚し、一人ひとりの個性・可能性を伸ばすとともに、積極的・主体的に地域社会と関わり、地域に貢献する力を育成します。
- ・異なる考え方や個性を互いに尊重し、他者と協働して住みよい共生社会を実現する力を育成します。
- ・探究心を持ち、SDGsの視点を取り入れ、持続可能な地域社会の実現に向け、何事にも挑み続ける粘り強い力を育成します。

◇カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
「このような学びを行います」

- ・系列を活かした学びにより、様々な選択科目を設置し、生徒一人ひとりの学力、興味・関心に応じた多様な選択を可能にします。
- ・多様な進路に応じた進路実現のための、教育課程の充実を図ります。
- ・主体的・対話的で深い学びを実現し、一人ひとりの自ら学ぶ意欲を高めます。
- ・各教科・科目とも、生徒の個性や特徴、または興味や関心に応じた系統的な学習を行います。
- ・探究的な学びや地域に密着した活動を通じて、発信する力、表現する力、自律する力、課題解決力の育成を図っていきます。

◇アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）
「このような生徒を求めます」

- ・自分の得意なことを伸ばそうとする意欲があり、同時に他者を大切にして思いやりのある人を求めます。
- ・基本的な生活習慣を身に付けるとともに、礼節を心得、互いに切磋琢磨しながら自分の能力を伸ばしたい人を求めます。
- ・周囲の雰囲気流されることなく、しっかりと自分で考えて適切な判断によって行動できる人を求めます。
- ・社会への関心を持ち、自分の夢を探し、実現に向けて前向きに努力し、チャレンジできる人を求めます。

5 進路状況

	H9	…	H12	…	H17	…	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
大 学 (国 公 立)	4 (0)		11 (2)		14 (0)		13 (3)	13 (5)	18 (8)	26 (6)	30 (11)	24 (9)	20 (3)	16 (3)	19 (5)	35 (3)	38 (7)	39 (7)
短 大	9		16		16		26	32	33	30	37	26	29	35	24	28	15	14
専 門 学 校	43	…	54		74	…	51	53	43	38	26	39	40	55	50	55	46	44
就 職	66		54	…	33		47	42	48	47	47	48	53	39	41	27	33	32
そ の 他	2		15		7		8	5	3	6	6	7	6	5	8	2	10	9
卒 業 者 数	124		150		144		145	145	145	147	146	144	148	150	142	147	142	138

総合学科開始前

総合学科1期生

専門学校の進学者が最多

国公立大学最多

コロナ禍始まる

※総合学科の特徴である、多様な進路の実現を目指している

6 2年次から始まる系列の学習（中3生に向けた学校案内での紹介内容）

【文理探究系列】

文系・理系科目を中心に学びます。教育、看護、医療、社会学、栄養学、農業系などの4年制大学・短期大学・専門学校等への進学や、公務員就職を目指します。数学検定やフラワー装飾技能検定などにも挑戦できます。



数学の授業



理科の実験

【グローバル・スタディーズ系列】

語学を中心に文化を含む外国に関する科目を広く学びます。英語のほか、ハンゲルや中国語も選択し、検定やスピーチコンテストなどにも挑戦できます。取得した、資格や語学力を活かし、4年制大学、短期大学・専門学校への進学・就職を目指します。



ハンゲルの授業



英語の実験

【ビジネスプランニング系列】

商業・情報などに関する科目を中心に学びます。学んだ内容から職業観を身に付け将来の人生設計に活かすことができ、商業系の進学・就職に対応しています。全商の情報処理検定1級、簿記検定2級、ビジネスコミュニケーション検定などにも挑戦できます。



情報の授業



ビジネスマナー

【スポーツ＆ライフ系列】

理論・生理学も含めたスポーツに関する科目を中心に学び、4年制大学・専門学校への進学や就職を目指します。生涯スポーツについて理解を深め、国立公園大山のフィールドを活かしたゴルフ、カヌー、乗馬、スキーなどの校外学習も体験できます。



乗馬実習



カヌー実習

【保育・福祉系列】

保育・介護に関する科目を中心に学びます。実習や演習などの体験的な授業も多く、系列の進学や就職に対応します。保育検定や介護職員初任者研修、鳥取県福祉ヘルプメイトなどの資格にも挑戦できます。



保育実習



介護実習

【総合芸術系列】

デザイン・CG・絵画・立体造形などの美術に関する科目、または声楽（合唱）・器楽（合奏）などの音楽に関する科目を中心に学び、美術または音楽での表現力・創造力を伸ばし、地域に向けて芸術の発信を行います。美術・音楽系の4年制大学・専門学校への進学や就職を目指します。



日本音楽



総合美術展風景

Ⅲ 米子高校における家庭科の実践

1 令和6年度開設科目

	開設科目（単位数）
1年次	家庭総合（4）
2年次	保育基礎（4） ファッション造形基礎（3） フードデザイン（2）
3年次	保育実践（4） ファッション造形（4） 食文化（2） 生活教養〔学校設定科目〕（2）

※令和7年度1年次に「生活福祉基礎〔学校設定科目〕（2単位）」を選択科目として設置

2 令和6年度家庭科の授業実践

※家庭科技術検定の級は令和6年度までのもので表記

（1）家庭総合（1年 4単位 必履修科目）

【科目の目標】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

【総合学科における特徴】

2年次から系列の選択科目の授業が多く入ってくるため、家庭総合4単位を1年次のうちに学習させています。実習に時間を十分に充てることができ、より深い学びができています。進路がまだ決まっていない生徒は、授業を通して自身の興味・関心を確認することができます。福祉に関する興味付けも行っています。

【特徴的な取組】

- ① 金融リテラシー検定（消費・経済分野を学習した後、希望者が受検します。）
- ② 生徒に取り組ませる課題など
ホームプロジェクト、子どものおもちゃ作り、被服小物製作、調理実習
- ③ 外部講師 金融経済教育セミナーをオンラインで受講



被服分野：ペンケース製作

（2）保育基礎（2年 4単位 選択科目）

【科目の目標】

保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を、実践的・体験的な学習活動によって育成します。

【総合学科における特徴】

自らの興味や将来の進路に沿った科目として選択しているため、生徒のモチベーションは高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多くいます。また、少人数授業のため、実技指導や実習などで丁寧な指導ができています。音楽や美術の分野は学校設定科目として専門の教員から指導を受けることができるため、保育に必要な資質・能力を総合的に伸ばすことができます。

【特徴的な取組】

- ① 保育技術検定 [言語表現技術] [家庭看護技術] 4・3級
[造形表現技術]は「保育造形」で、[音楽・リズム表現技術]は「保育音楽」で実施
- ② 生徒に取り組ませる課題など おもちゃの作成、保育園実習の企画・準備（歌・手遊び・ダンス・ゲーム・工作・ペープサートなど）
- ③ 外部講師 [言語表現技術] 検定3級に関して紙芝居表現の指導を依頼



保育実習：紙芝居の実演



保育実習：ゲームの企画・実践

（3）ファッション造形基礎（2年 3単位 選択科目）

【科目の目標】

ファッションの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて、体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を身に付けさせます。

【総合学科における特徴】

自らの興味や将来の進路に沿った科目として選択しているため、生徒のモチベーションは比較的高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多くいます。生徒の技術力の差が大きいため、基礎から取り組んでいますが、少人数授業のため、丁寧な実技指導ができます。

【特徴的な取組】

- ① 被服製作技術検定4級・3級（検定合格を目指して、試作→リハーサル→検定本と製作及び評価を積み重ねることで、技術の定着につなげています。）
- ② 生徒に取り組ませる課題など 基礎縫い、ティッシュケース（検定課題）、ショートパンツ（検定課題）、ブラウス、リメイク

（4）フードデザイン（2年 2単位 選択科目）

【科目の目標】

家庭生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、食生活を総合的にデザインするとともに、食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を身に付けさせます。

【総合学科における特徴】

全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級及び3級合格を目指して学習を進めています。検定合格を目指すことで生徒の意欲は高まり、食に関する知識・調理技術を身に付けるだけでなく、段取りよくものごとを進めていく力も身に付きます。

【特徴的な取組】

- ① 前期：全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級、後期：同3級
- ② 生徒に取り組ませる課題など きゅうりの半月切りの練習の記録、調理実習、調理実習の記録と栄養計算



食物調理技術検定の様子



段取りを考えた調理実習

（5）保育実践（3年 4単位 選択科目）

【科目の目標】

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を育成します。

【総合学科における特徴】

全国高等学校家庭科保育技術検定（言語表現・家庭看護）2級及び1級合格を目指して学習を進めています。検定合格を目指すことで、職業としての保育に必要な知識・技術を意欲的に身に付けようとしています。また、保育実習を通して、よりよいものを作り出そうとする創造力が身に付きます。

【特徴的な取り組み】

- ① 前期：家庭科保育検定〔言語表現技術〕〔家庭看護技術〕 2級、後期：同1級
- ② 生徒に取り組ませる課題など 保育実習（手遊び、絵本の読み聞かせ、ペープサート、ピアノの伴奏、歌等）、おもちゃの工作、物語の創作、おむつ交換、ケガの手当
- ③ 外部講師 〔言語表現技術〕2級・1級に関して絵本の読み聞かせ表現の指導を依頼
〔家庭看護技術〕1級に関して救急法、幼児安全法の指導を依頼



保育実習：手遊びの様子



保育検定：家庭看護技術1級の練習

（6）ファッション造形（3年 4単位 選択科目）

【科目の目標】

ファッション製品の創造的な製作を担う職業人として必要な資質・能力を体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を身に付けさせます。

【総合学科における特徴】

自らの興味や将来の進路に沿った科目として選択しているため、生徒のモチベーションは高く、難しい課題に意欲的に取り組んでいます。また、今年度は高い技術を持った非常勤講師に来ていただき、少人数授業で着実に生徒の技術向上ができています。

【特徴的な取組】

- ① 被服製作技術検定2級（洋服）
- ② 生徒に取り組ませる課題など ショートパンツ・ブラウス・スカート
- ③ その他 生徒たちが小学校に赴き、小学校の授業をサポートすることで、①基礎技術の定着②自己有用感③地域貢献につなげることをねらいとして、「裁縫ボランティア」を2回行いました。



5年生の「家庭」玉結び・玉止めのサポート



2回目：並縫いのサポート

（7）食文化（3年 2単位 選択科目）

【科目の目標】

食文化の伝承と創造を担う職業人として必要な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通し、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けさせ、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。

【総合学科における特徴】

自らの興味や将来の進路に沿った科目として選択しているため、生徒のモチベーションは高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多くいます。また、少人数授業のため、実技指導や実習などで丁寧な指導ができます。

【特徴的な取組】

- ① 食物調理技術検定 2 級
- ② 生徒に取り組ませる課題など 日本の郷土料理、世界の料理
- ③ その他 「鳥取県民の日」には郷土料理である大山おこわとじゃぶ汁の実習を行いました。



郷土料理



実習出来上がった「大山おこわ」「じゃぶ汁」

（８）生活教養〔学校設定科目〕（３年 ２単位 選択科目）

【科目の目標】

エチケットの意義や基本について理解させ、日常生活やビジネスでのマナー・エチケットを身に付けた常識ある社会人を育成します。また、日本の伝統的文化に触れ、豊かな人間性を育むとともに、正しい言葉遣いや立ち居振る舞いなどを毎日の生活に生かすことができるようにします。

【総合学科における特徴】

保育・福祉の仕事は職場だけでなく、利用者やその家族との接点が多くあります。望ましい人間関係を築くために、礼儀作法、年中行事、冠婚葬祭などの生活文化の知識・技術を習得しておく必要があるため設定しました。どの系列の生徒も選択できますが、特に保育・福祉系列 福祉コースの生徒が選択しやすいように教育課程を組んでいます。

【特徴的な取組】

生徒に取り組ませる課題など

ビジネスマナー、接遇マナー、食事のマナー、箸置き作り、祝儀袋の書き方、手紙の書き方、風呂敷の使い方、茶道など



茶道体験

3 米子高校における授業（家庭科）実践の現状と課題

○総じて、高度な学習になりにくい状況となっています。

○食物関係の進路を目指す生徒（毎年数名が食物関係の専門学校、短大、大学に進学）の多くは、授業を通じて興味関心が高まった生徒です。

○1年次の家庭総合（4単位）は家庭科の学習内容に価値観を生じさせています。（他の科目はすべて3単位以下です）

○総合学科の特徴として、選択者数によって、科目が成立するかどうか不透明です。そのため、家庭科の開講授業時数が大きく変動し、教員定数まで左右しかねない状況です。

○探究学習としての題材になる要素を大きく含んでいますが、現時点では結びつきが薄くなっています。探究学習との結びつきを深めるための授業実践を行いたいと考えています。

- ・1年次の家庭総合（4単位）は、家庭科に関する進路を考えさせることができる時間を十分に確保していますが、進路意識の醸成が遅れた集団になると低調な授業の雰囲気を作りかねません。
- ・生徒の理解、意欲、必要に感じるレベルの幅が広く、授業の焦点が絞りにくくなっています。また、途中で進路目標が変わることもままあり、徒労感を生じることが否めません。また、逆にメディアなどの情報、人づてに聞く内容に流されやすいため、急に意欲レベルが上がり、求める内容と生徒自身の実力が大きく乖離することがあります。
- ・授業内容は多岐（食物、被服、保育）に渡りますが、いろいろな要因で、専門学科（家庭学科）と同レベルの内容が提供できないことがあります。
- ・近年、教員志望が減り、家庭科教員の確保が難しくなっています。令和6年、7年度は本校の家庭科の定数は3名ですが、そのうち1名は臨時免許状での対応を余儀なくされています。
- ・科目の継続（ファッション造形基礎とファッション造形、保育基礎と保育実践、フードデザインと食文化）を、一部の生徒は選択しません。そのため、いわば、「ちょっとやっただけ」の学習になり、達成感、成就感が不足する生徒が生じています。
- ・家庭科教員が福祉科目も受け持つため、生徒には福祉と家庭科の科目の垣根が低くなっています。
- ・中3生向けの学校紹介において、「本校の特徴は、高校に入ってから進路を相談して決められること」としてアピールしているため、比較的成績上位層の生徒は大変意欲的に取り組んでいます。一方で、目標意識が高まらない生徒は「安易な（楽な）科目選択」に終始し、備わっている能力が伸びていません。

IV おわりに

本校の新入生アンケートにおける「志望理由」では、「（多様な選択科目が設置してあり）自分の興味に合わせた勉強ができる」と答えた生徒が多くいます。また、中学校で普通科に行くか、専門学科に行くかを明確に決めきれなかったため本校に進学した生徒も多くいます。さらに、入学当初の担任との面談において、高校卒業後の進路を進学または就職のいずれかを明確にしていない生徒が約8割に及んでいます。

一方で生徒の実態に比して、教員の理解は追いついていない現実があります。普通学科高校の進学、専門学科高校の就職のいずれでもない「第3の学科」である総合学科の生まれた理由や存在意義を考えれば至極当然のことです。表面上は総合学科が従来の学科とは異なることは理解されてきま

したが、どういう生徒が入学し、どういう生徒を育てたいか、どういう力をつけたいかという実践していく教育内容の方向性のわかりやすさが示されなければならないと考えます。普通学科、専門学科は卒業後の自分から逆算して選択しています（させています）が、総合学科は今の自分との調和による選択です。中学生の高校選択は学力の輪切りによる部分が大きいことは否めませんが、総合学科が誕生した社会背景、将来を見通せない生徒心理を理解しなければいけません。

本校において、教科としての家庭科は総合学科の大命題である「多岐に渡る進路保障」の一翼を担う重要な教科であり、汎用性の高い教科であります。食物と健康を結び付ければ、基本的生活習慣を学ぶ機会になり、保育と地域連携を結び付ければ、自己有用感、自己肯定感の向上につながります。また、実技を伴う授業は探究学習の材料としても活用しやすいです。そして、1年次に4単位ある時間を有効活用して、科目選択と卒業後の進路を関連付けて丁寧に説明していきたいと考えます。

本校は何事もキチンとやろうとする生徒が多くいます。生徒にとって、科目履修、授業、産業社会と人間、総合的な探究の時間など、米子高等学校で行う教育活動にキチンと取り組むことがそのまま力となっています。学校教育では、人が人を教えることが基本原則であります。然るに学校においては、教職員のアクションが教育効果を大きく左右します。過去に学校の中には「意思統一」という言葉が存在しましたが、意思だけ統一したけれどもアクションがバラバラという現象が散見されました。教職員個々のマインドやアクションが同じ方向にあるという意味で「教職員のベクトル合わせ」を行うことが教育効果を高めると考えます。そのためにも業務の効率化を推進しながら、深い生徒理解と幅広い進路選択の実現を目標に、学校の歩む方向性を作りたいと考えています。